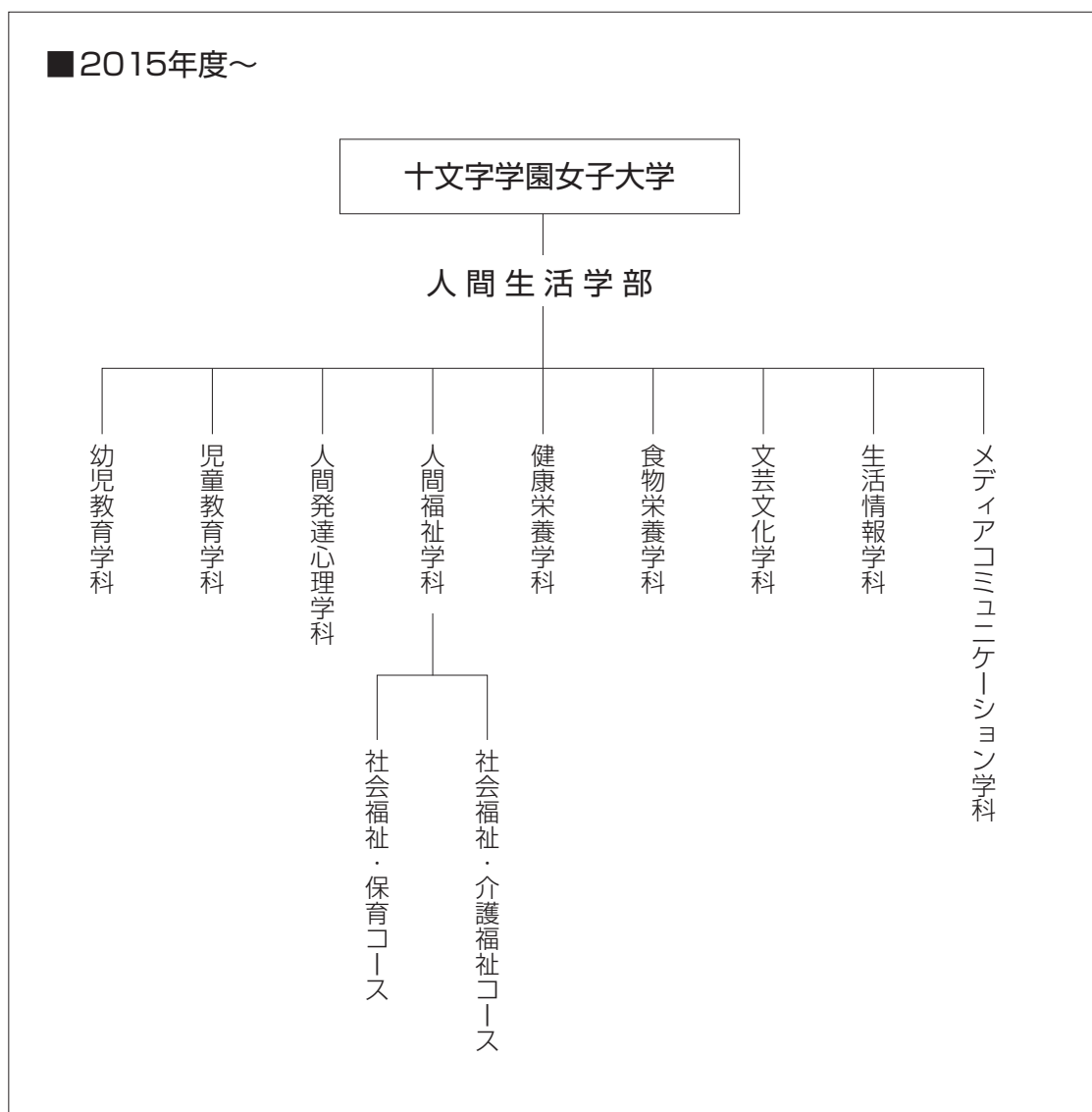


4

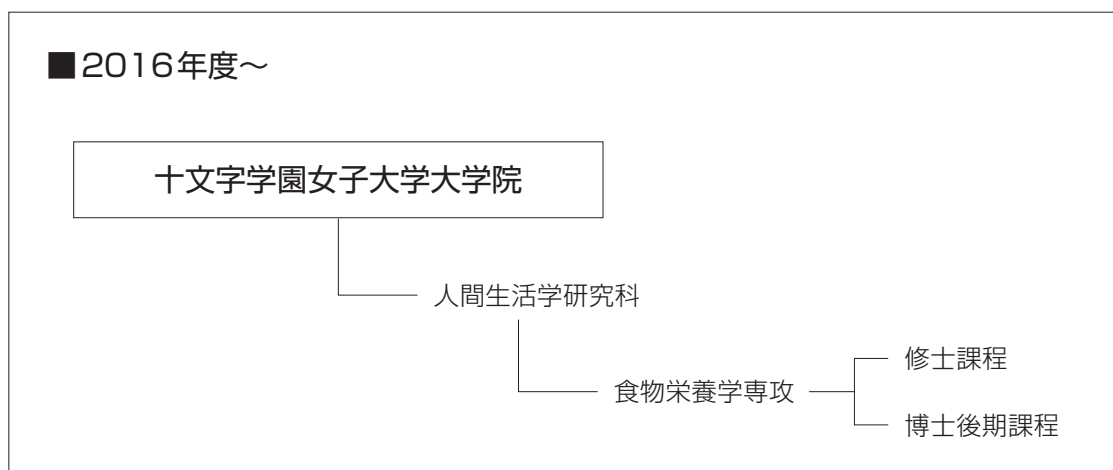
教育課程

I	学部学科構成	62
II	人間生活学部 共通科目 教育課程〈全学科共通〉	63
III	人間生活学部 専門科目 教育課程	
	1. 幼児教育学科 (KA)	65
	2. 児童教育学科 (KB)	70
	3. 人間発達心理学科 (KC)	76
	4. 人間福祉学科 (KD)	82
	5. 健康栄養学科 (KE)	90
	6. 食物栄養学科 (KF)	96
	7. 文芸文化学科 (KG)	102
	8. 生活情報学科 (KH)	108
	9. メディアコミュニケーション学科 (KJ)	114
IV	副指導教員制度	120
V	単位認定・履修免除制度	121
VI	彩の国大学コンソーシアム友好交流単位互換	127
VII	放送大学との単位互換制度	129

■ 2015年度～



■ 2016年度～



II

共通科目 教育課程

〈全学科共通〉[2019年度生]

科目群	卒業に必要な単位数	条 件
共通科目	18単位以上	<p>必修科目「入門ゼミナール」「情報処理演習Ⅰ」の3単位を含む18単位以上を履修する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「入門ゼミナール」1科目2単位必修 ●十文字学の「学びの基盤をつくる」「女性の自立・生き方を学ぶ」「地域と社会を学ぶ」「人間と自然を学ぶ」の4区分からそれぞれ1科目2単位以上（ただし、「学びの基盤をつくる」区分は、「入門ゼミナール」の他に1科目2単位以上を履修する。） ●「保健体育」から1科目1単位履修（なお、「身体運動Ⅰ」を履修することが望ましい。） ●外国語の「基礎科目」から1科目2単位履修（ただし、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」は、日本語を母国語としない者のみ履修可） ●「情報処理演習Ⅰ」1科目1単位必修

▶ 学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

科目群	学 科	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				備 考
			必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年	
共 通 科 目	学 び の 基 盤 を つ く る	入門ゼミナール	2		講義	前期	2				前期開講せず } 1科目 前期開講せず } 2単位以上 繰り返し受講可 } 履修 (講座の内容による)
		地域で学ぶ		2	講義	前・後	2				
		読書入門		2	講義	前・後	2				
		総合科目		2	講義	前・後	2				
	女 性 の 自 立 ・ 生 き 方 を 学 ぶ	家庭と法		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	1科目2単位以上履修
		キャリアデザインとライフプラン		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		子育てと環境		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		食の科学		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		女性と健康		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		女性と文化		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
	地 域 と 社 会 を 学 ぶ	埼玉の地理・歴史・文化		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	1科目2単位以上履修 教員免許取得希望者は、「くらしのなかの日本国憲法」を履修すること
		現代社会と教育		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		現代社会と福祉		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		現代社会とグローバル化		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		くらしのなかの日本国憲法		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		情報とネットワーク社会		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
	人 間 と 自 然 を 学 ぶ	地球環境の保全と生活		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	1科目2単位以上履修 保育士資格及び管理栄養士取得希望者は、「健康と運動」を履修すること
		宇宙とものなりたち		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		生物の多様性と倫理		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		地球のしくみと災害		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
		原子のエネルギーとわたしたち		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
健康と運動			2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)		

[共通科目]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目		単位数		授業形態	履修期	学年別配当				備考
		必修	選択			1年	2年	3年	4年	
保健体育	身体運動Ⅰ		1	実技	前期	1				1科目1単位履修 「身体運動Ⅰ」を履修することが望ましい。 教員免許取得希望者および保育士資格取得希望者は、2科目2単位を履修すること。 「身体運動Ⅱ」は、繰り返し受講可（ただし条件あり）
	身体運動Ⅱ		1	実技	後期	(1)	(1)	(1)	(1)	
基礎科目	英語Ⅰ		2	演習	通年	2				1科目2単位履修 但し、「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」は日本語を母国語としない者のみ履修可。 教員免許取得希望者および保育士資格取得希望者は、「英語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「ハンブルⅠ」のいずれか1科目2単位を履修すること。 「中国語Ⅱ」「日本語Ⅱ」は繰り返し受講可
	英語Ⅱ		2	演習	通年	(2)	(2)	(2)	(2)	
	フランス語Ⅰ		2	演習	通年	2				
	フランス語Ⅱ		2	演習	通年	(2)	(2)	(2)	(2)	
	中国語Ⅰ		2	演習	通年	2				
	中国語Ⅱ		2	演習	通年	(2)	(2)	(2)	(2)	
	ハンブルⅠ		2	演習	通年	2				
	ハンブルⅡ		2	演習	通年	(2)	(2)	(2)	(2)	
	日本語Ⅰ		2	演習	通年	2				
	日本語Ⅱ		2	演習	通年	(2)	(2)	(2)	(2)	
海外語学研修（事前事後指導を含む）		2	演習	前期	(2)	(2)	(2)	(2)		
資格科目	TOEIC対策講座		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	中国語試験対策科目		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	繰り返し受講可
	日本語能力試験対策講座（文法・文字語彙）		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	繰り返し受講可
	日本語能力試験対策講座（読解）		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	繰り返し受講可
目的別科目	アドバンスト・リスニング		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	アドバンスト・リーディング		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	アドバンスト・ライティング		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	日常英会話入門		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	日常英会話		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	ビジネス英語		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	ビジネス英会話		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	映画・ドラマ英語		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
	インターネット英語		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)	(2)	
	メディア英語		2	講義	前・後	(2)	(2)	(2)	(2)	
日本語表現技術		2	演習	通年	(2)	(2)	(2)	(2)		
情報処理基礎	情報処理演習Ⅰ	1		演習	前期	1				教員免許取得希望者は、2科目2単位を履修すること
	情報処理演習Ⅱ		1	演習	後期	(1)	(1)	(1)	(1)	
キャリア教育	働く意欲を高める		2	講義	後期	2				
	キャリアサポート		2	講義	前期		2			
	インターンシップ短期		1	実習	前・後	(1)	(1)	(1)		繰り返し受講可
	インターンシップ		2	実習	前・後	(2)	(2)	(2)		繰り返し受講可
	自主社会活動 ※ 1		1	演習	前・後	(1)	(1)	(1)	(1)	繰り返し受講可
	企業に学ぶキャリアデザインⅠ 課題解決プロジェクト		2	講義	前期	(2)	(2)			
	企業に学ぶキャリアデザインⅡ 社会人インタビュー		2	講義	後期	(2)	(2)			
	留学生のためのキャリアデザイン		2	講義	後期			2		
	魅力を高める		2	講義	前期		2			
キャリア基礎力入門		2	講義	後期		2				
キャリア基礎力応用		2	講義	後期		2				
現代社会理解		2	講義	前期			2			

注：※1印の「自主社会活動」の単位取得方法についての詳細はP.57を参照してください。

III

幼児教育学科 (KA)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科専門科目	必修	36単位	90単位
	選択	54単位	
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、必修科目36単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目54単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目60単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a~c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専	門	科	目	授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考
					必修	選択			1年	2年	3年	4年		
基 礎 保 育 と 教 育	基	礎		児童学概論	2		講義	前期	2				○	
				児童学演習	2		演習	通年	2				×	
				児童学研究法	2		講義	後期			2		×	
	礎			幼児教育基礎実習	2		実習	後期		2			×	
				幼児教育基礎演習	2		演習	後期		2			×	
				保育者論	2		講義	前期			2		×	
	保			幼児教育学	2		講義	前期	2				×	
				教育学	2		講義	後期	2				×	
				保育制度・保育政策論		※○2	講義	前期		2			×	
	育			特別支援教育概論	2		講義	後期		2			×	
				障害児保育		△2	演習	前期			2		×	
				保育・教育課程論		※△2	講義	前期			2		×	
	と			教育方法		※○2	講義	前期		(2)	(2)		×	
				乳児保育 I		△2	講義	前期		2			×	
				乳児保育 II		△2	演習	後期		2			×	
	教 育			多文化保育論		○2	講義	前期			(2)	(2)	×	
				保育学		2	講義	前・後			(2)	(2)	×	繰り返し受講可
				保育臨床学		2	講義	前・後			(2)	(2)	×	繰り返し受講可
			保育実践論		2	講義	前・後			(2)	(2)	×	繰り返し受講可	

註：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目

註：△印の科目は、保育士資格の必修科目

註：○印の科目は、保育士資格の選択必修科目

[幼児教育学科]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授 業 科 目		単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考		
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年				
専 門 科 目	保 育 内 容	保育内容総論		※△2	演習	後期			2		×		
		保育内容の指導法（健康）		※△2	演習	前期		2			×		
		保育内容の指導法（環境）		※△2	演習	後期		2			×		
		保育内容の指導法（人間関係）		※△2	演習	前期			2		×		
		保育内容の指導法（言葉）		※△2	演習	前期			2		×		
		保育内容の指導法（音楽表現）		※○2	演習	前・後			2		×		
		保育内容の指導法（造形表現）		※△2	演習	後期		2			×		
		保育内容の指導法（身体表現）		※△2	演習	前期			2		×		
		子どもと自然		※△2	演習	後期		2			×		
	発 達 と 臨 床	保育・教育心理学	2			講義	前期	2			×		
		保育・教育相談		※2		講義	後期			2	×		
		子どもの理解と援助		△2		演習	前期		2		×		
		生涯発達心理学	2			講義	後期	2			×		
		青年心理学		○2		講義	前期		(2)	(2)	(2)	×	
		乳幼児発達論		2		講義	前・後			(2)	(2)	×	繰り返し受講可
		発達臨床論		2		講義	前・後			(2)	(2)	×	繰り返し受講可
	生 活 と 福 祉	子ども家庭福祉Ⅰ	2			講義	前期	2			×		
		子ども家庭福祉Ⅱ		○2		演習	後期			2	×		
		社会福祉	2			講義	後期	2			×		
		子ども家庭支援論		△2		講義	前期		2		×		
		社会的養護Ⅰ		△2		講義	前期		2		×		
		社会的養護Ⅱ		△2		演習	後期		2		×		
		子育て支援		△2		演習	後期		2		×		
		地域福祉論		○2		講義	前期		(2)	(2)	(2)	×	
		児童養護論		2		講義	前・後			(2)	(2)	×	繰り返し受講可
	健 康 と 運 動	児童保健学	2			講義	後期	2			×		
		子どもの健康と安全		△2		演習	前期		2		×		
		食と発達		△2		演習	前期		(2)	(2)	×		
		体育基礎Ⅰ（子どもと運動）		※○2		演習	前期		2		×		
		幼児運動論		2		演習	前・後			(2)	(2)	×	
		健康教育学		2		講義	前・後			(2)	(2)	×	
		表 現 と 文 化	音楽基礎Ⅰ（歌唱法）		※○2		演習	前期		2		×	
	音楽基礎Ⅱ（ピアノ基礎技術）			※○1		実技	後期	1			×		
音楽基礎Ⅲ（楽器演奏）			○1		実技	前・後		1		×			

注：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目

注：△印の科目は、保育士資格の必修科目

注：○印の科目は、保育士資格の選択必修科目

[幼児教育学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 科 目	表 現 と 文 化	造形基礎Ⅰ（感じて表現）		※○2	演習	前期	2				×	
		造形基礎Ⅱ（考えて表現）		※○2	演習	後期	2				×	
		体育基礎Ⅱ（身体表現）		※○2	演習	後期		2			×	
		表現総論	2		講義	前期			2		×	
		言語文化表現		※△2	演習	後期	2				×	
		ネイチャー・ワーク	2		演習	前期		2			×	
		ミュージック・クリエーション		1	演習	2前・4後		(1)		(1)	×	繰り返し受講可、4年は前期履修
		造形発達と表現		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		幼児音楽論		2	講義	前・後			(2)	(2)	×	繰り返し受講可
		造形保育論		2	講義	前・後			(2)	(2)	×	繰り返し受講可
	身体表現論		2	講義	(前)・(後)			(2)	(2)	×		
専 門 科 目	フ ィ ー ル ド ワ ー ク (実 習)	幼稚園教育実習総論		※1	実習	通年			(1)	(1)	×	
		幼稚園教育実習		※4	実習	通年				4	×	
		保育実習総論Ⅰ		△2	演習	通年			(2)	(2)	×	
		保育実習総論Ⅱ		○1	演習	前期				1	×	★ } 保育士資格取得希望者は、★印の2科目3単位又は、☆印の2科目3単位以上を履修すること ☆ }
		保育実習総論Ⅲ		○1	演習	前期				1	×	
		保育実習Ⅰ（保育所）		△2	実習	通年			(2)	(2)	×	
		保育実習Ⅱ		○2	実習	通年			(2)	(2)	×	
		保育実習Ⅰ（施設）		△2	実習	通年			(2)	(2)	×	
		保育実習Ⅲ		○2	実習	通年			(2)	(2)	×	
		保育インターンシップ		○2	実習	通年			(2)	(2)	×	
保育・教職実践演習		※△2	演習	後期				2	×			
卒業研究	4		演習	通年				4	×			
合 計												

註1：幼稚園教諭一種免許状取得希望者は必修科目に加えて※印の科目を全て履修しなければならない。

註2：保育士資格取得希望者は必修科目に加えて△印の科目を全て履修しなければならない。さらに○印から9単位以上を選択して履修すること。そのうち、「保育実習総論Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」又は「保育実習総論Ⅲ」と「保育実習Ⅲ」のどちらか3単位以上履修しなければならない。

註3：フィールドワーク（実習）科目については、幼児教育学科が作成した「実習の手引き」記載事項をふまえて履修すること。

註4：社会福祉主事任用資格取得希望者は、以下の科目のうち3科目を履修する必要がある。

「社会福祉」「保育学」「地域福祉論」「教育学」

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

幼児教育学科 カリキュラムマップ

☐ → 必修

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
基礎	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く子どもと保育にかかわる課題について関心をもつ。 子どもと保育の実態を実習を通して理解し、自らの子ども理解を深める。 子どもと保育にかかわる研究理論と手法について学習し、卒業研究等に取り組むための基礎力を獲得する。 	児童学概論 児童学演習	幼児教育基礎実習 幼児教育基礎演習	児童学研究法	
		幼児教育学 教育学	保育制度・保育政策論 特別支援教育概論 教育方法 乳児保育 I 乳児保育 II	保育者論 障害児保育 保育・教育課程論 多文化保育論 保育学 保育臨床学 保育実践論	
保育と教育	<ul style="list-style-type: none"> 保育及び教育に関する基本的な知識を獲得し、事例検討、保育観察を通して、保育者に必要な資質を習得する。 障害児保育に関する基本的な知識を獲得するとともに、実践を通して子どもの指導や援助に関する力量を身につける。 乳児保育や多文化保育などの理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を身につける。 保育の計画、指導方法の研究と選択、保育実践、実践評価、評価に基づく計画について循環的に構想・実践する力を獲得する。 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。 				
			保育内容の指導法（健康） 保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（造形表現） 子どもと自然	保育内容総論 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（音楽表現） 保育内容の指導法（身体表現）	
保育内容	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に生かす力を養う。 保育内容に適した指導方法について理解し、活用する力を身につける。 保育内容の5領域を総合的に捉え、具体的な援助を構想することができる。 				
		保育・教育心理学 生涯発達心理学	子どもの理解と援助 青年心理学	保育・教育相談 乳幼児発達論 発達臨床論	
発達と臨床	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子どもの理解に生かす力を養う。 子ども同士の関係や仲間集団を理解し、保育に生かす力を身につける。 子どもと保護者に関する心理的支援に関心を持ち、事例検討を踏まえてカウンセリングマインドの必要性を認識する。 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。 				
		子ども家庭福祉 I 社会福祉	子ども家庭支援論 社会的養護 I 社会的養護 II 子育て支援 地域福祉論	子ども家庭福祉 II 児童養護論	
生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとその家庭の現状と変遷に関する基本的知識を身につけ、子どもと家族にかかわる課題について考える力を養う。 保護者に対する子育ての支援について事例を通して考察し、保育者の職務や資質・技能を習得する。 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。 				
		児童保健学	子どもの健康と安全 食と発達 体育基礎 I	幼児運動論 健康教育学	
健康と運動	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康に関する基礎的知識と技能を有し、保育場面で必要な援助を選択して実行することができる。 子どもの栄養や食育に関する基礎的知識を獲得し、今日的課題に取り組む。 子どもの運動指導に関する環境設定及び援助方法について実践を通して知識と技能を習得する。 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。 				

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
表現と文化	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現にかかわる基礎的知識・技能を獲得し、自ら表現する力や子どもの表現を理解できる感受性を養う。 子どもの表現を総合的な心情や思考の表出と捉え、発達や内面理解に基づき援助や環境構成を考慮することができる。 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。 	音楽基礎Ⅱ（ピアノ基礎技術） 造形基礎Ⅰ（感じて表現） 造形基礎Ⅱ（考えて表現） 言語文化表現	音楽基礎Ⅰ（歌唱法） 音楽基礎Ⅲ（楽器演奏） 体育基礎Ⅱ（身体表現） ネイチャー・ワーク ミュージック・クリエーション 造形発達と表現	表現総論 幼児音楽論 造形保育論 身体表現論	ミュージック・クリエーション
フィールドワーク（実習）	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育所・認定こども園の保育者の専門性を理解し、実習を通して保育実践力を獲得する。 児童福祉施設（保育所以外）の保育士の専門性を理解し、実習を通して保育実践力を獲得する。 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、実習先と実習課題を設定し、問題意識を持って発展的学習に取り組む。 			幼稚園教育実習総論 保育実習総論Ⅰ 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習Ⅲ 保育インターンシップ	幼稚園教育実習 保育実習総論Ⅱ 保育実習総論Ⅲ
総合	<ul style="list-style-type: none"> 教職カルテに基づき、自らの4年間の学習を振り返ることで学習課題を明確にし、保育者となる上で必要な資質を確認する。 めざす保育者像を明確にするとともに、自己課題解決と発展的知識・技能の獲得に努める。 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む。 				保育・教職実践演習 卒業研究
DP	幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 子どもの心理や発達特性を理解し、それに応じた保育を構築し、実践することができる。 2. 子どもの表現を読みとる豊かな感性をもち、子どもと響きあえる表現力を身につける。 3. 子どもと保育にかかわる課題を設定し、自ら探求する意欲とその基礎となる知識・技能をもち。				
CP	幼児教育学科では、保育者養成を基盤とし、広く人間理解力と関係発展力に富み、創造力を備えた人材を養うカリキュラムを編成する。 1. 学びの基礎となる「基礎」領域では、育つものとしての子どもに対する知識・技能を習得し、子どもの育ちを支える保育者としての基本姿勢を学ぶ。 2. 「保育と教育」「保育内容」「発達と臨床」「生活と福祉」「健康と運動」の5つの領域では、各領域の専門的な知識と技能の習得を図り、全人的な人間理解をめざす。 3. 「表現と文化」の領域では、子どもの豊かな表現をはぐくむことをめざし、学習者自身の感性豊かな表現力を高める。 4. 実習関連科目である「フィールドワーク（実習）」領域では、これまでの学びを統合し、子どもの主体性と自発性を尊重しつつ、保育を構築していく実践力を育成する。				

児童教育学科 (KB)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科専門科目	必修	47単位	90単位
	選択	43単位	
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、必修科目47単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目43単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目50単位取得した場合は、7 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓
a~c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専	門	科	目	授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考			
					必修	選択			1年	2年	3年	4年					
A	教職基礎・教科教育学分野	教職の意義に関する科目	A	教職入門A	2		講義	前期	2					○			
				教職の基礎理論に関する科目	教育学概論A	2		講義	前期	2						○	
					教育心理学A	2		講義	後期	2						○	
					学校制度論A	2		講義	前期	2						○	
					特別な教育的ニーズの理解と支援A	2		講義	前期	2						○	
					特別支援学校教育概論		2	講義	前期	2						○	
					知的障害教育概論		2	講義	前期		2					○	
					肢体不自由教育概論		2	講義	前期		2					○	
					病弱教育概論		2	講義	後期		2					○	
					視覚障害教育概論		2	講義	後期			2				○	
					聴覚障害教育概論		2	講義	後期				2			○	
				重複障害教育概論		2	講義	後期					2		○		
				教育課程及び指導法に関する科目	教育課程論A	2		講義	後期		2					○	
					教育課程論B		2	講義	前期		2					○	
					初等国語科教育	2		講義	前期		2					○	
					初等算数科教育	2		講義	後期		2					×	
					初等理科教育	2		講義	前期		2					○	
					初等体育科教育	2		講義	前期		2					○	
					初等音楽科教育	2		講義	後期				2			○	

[児童教育学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専	門	科	目	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考
					必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年		
				初等図画工作科教育	2		講義	後期		2			○	
				初等社会科教育		■2	講義	後期		2			○	
				初等生活科教育		■2	講義	前期		2			○	
				初等家庭科教育		■2	講義	前期			2		○	
				初等英語科教育		■2	講義	後期		2			○	
				教材研究A		1	演習	前期		1			○	繰り返し受講可
				教材研究B		1	演習	後期		1			○	繰り返し受講可
				授業研究A		1	演習	前期			1		○	繰り返し受講可
				授業研究B		1	演習	後期			1		○	繰り返し受講可
				道德教育A	2		講義	前期			2		○	
				道德教育B		2	講義	後期		2			○	
				特別活動A	2		講義	後期		2			○	
				特別活動B		2	講義	前期		2			○	
				教育方法A	2		講義	前期		2			○	
				教育方法B		2	講義	後期		2			○	
				保育内容総論	2		演習	後期	2				○	
				保育内容の指導法(環境)		※2	演習	前期		2			○	
				保育内容の指導法(人間関係)		※2	演習	後期		2			○	
				保育内容の指導法(言葉)		※2	演習	前期		2			○	
				保育内容の指導法(健康)		※2	演習	後期		2			○	
				保育内容の指導法(音楽表現)		※2	演習	前期		2			○	
				保育内容の指導法(造形表現)		※2	演習	前期			2		○	
				特別支援教育指導法	1		演習	前期		1			○	
				知的障害教育課程論		2	講義	後期		2			○	
				肢体不自由教育課程論		2	講義	前期			2		○	
				病弱教育課程論		2	講義	前期			2		○	
				英語科教育法Ⅰ		2	講義	前期		2			○	
				英語科教育法Ⅱ		2	講義	後期		2			○	
				英語科教育法Ⅲ		2	講義	前期			2		○	
				英語科教育法Ⅳ		2	講義	後期			2		○	
				生徒指導・進路指導A	2		講義	前期		2			○	
				生徒指導・進路指導B		2	講義	前期			2		○	
				幼児理解の理論と方法		※2	講義	後期		2			○	
				教育相談A	2		講義	後期			2		○	
				教育相談B		2	講義	前期			2		○	

註：■印の科目は、小学校教諭一種免許状の必修科目

註：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目

[児童教育学科]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目		単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考		
		必修	選択			1年	2年	3年	4年				
専 門 科 目	B 教職実践分野	教育実習	教育実習事前事後指導	■2	演習	通年			2		○		
			教育実習	■※4	実習	前期				4	○		
			幼稚園教育実習（事前事後指導含む）	※2	実習	後期			2		○		
			特別支援学校教育実習（事前事後指導含む）	3	実習	通年				3	○		
			教育実習Ⅰ	1	実習	通年				1	○		
			教育実習Ⅱ	2	実習	通年				2	○		
			教育実習Ⅲ	2	実習	通年				2	○		
	教職実践論	教職実践演習 （幼・小・中・高）	■※2	演習	後期				2	○			
	C 教科専門分野	教科に関する科目	国語	2		講義	前期	2				○	繰り返し受講可
			算数	2		講義	後期	2				×	繰り返し受講可
			音楽		△●2	講義	後期		2			○	小学校免許取得を希望する者は、△印の8科目から3科目6単位以上、幼稚園教諭免許取得を希望する者は、●印の4科目から1科目2単位以上を履修すること
			図画工作		△●2	講義	後期	2				○	
			体育		△●2	講義	後期		2			○	
			社会		△2	講義	後期	2				○	
			生活		△●2	講義	前期	2				○	
			理科		△2	講義	後期	2				○	
			家庭		△2	講義	前期		2			○	
			外国語（英語）		△2	講義	前期		2			○	
			知的障害の心理・生理・病理		2	講義	後期	2				○	
			肢体不自由の心理・生理・病理		2	講義	後期	2				○	
病弱の心理・生理・病理				2	講義	前期	2				○		
D 教科・教職融合分野	教育の理論及び実践の応用に関する科目	学習指導と学校図書館		2	講義	前期		2		○			
		表現活動（基礎）		1	演習	前期	1				○	繰り返し受講可	
		表現活動（応用）		1	演習	後期	1				○	繰り返し受講可	
		教職基礎演習		1	演習	後期	1				×		
		教職発展演習		2	演習	通年		2			○		
		教職応用演習		1	演習	前期			1		○		
		学級経営と教科指導		2	講義	後期		2			○		
		外国語活動		2	講義	後期			2		○	繰り返し受講可	
		総合的な学習の時間の授業づくりA		2	講義	後期			2		○	繰り返し受講可	
		ICT教育と教科指導		2	講義	後期			2		○	繰り返し受講可	
理科実験・観察演習		1	観・察	後期			1		○	繰り返し受講可			

注：■印の科目は、小学校教諭一種免許状の必修科目

注：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目

注：△印の科目は、小学校教諭一種免許状の選択必修科目

注：●印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の選択必修科目

[児童教育学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専	門	科	目	授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考
					必修	選択			1年	2年	3年	4年		
D	教科・教職融合分野	教育の理論及び実践の応用に関する科目		教育行政概論		2	講義	後期			2		○	繰り返し受講可
				ピアノ奏法演習		1	演習	前・後	1				×	
				書写・文章表現演習(基礎)		1	演習	後期	1				○	繰り返し受講可
				書写・文章表現演習(応用)		1	演習	後期		1			○	繰り返し受講可
	E	英語学に関する科目		ことばのしくみ		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)		○	
				英語学		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)		○	
				英語音声学Ⅰ(子音と母音)		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)		○	
				英語音声学Ⅱ(発話実践)		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)		○	
				ことばへの気づきワークショップ		2	演習	後期	(2)	(2)	(2)		○	
		英語教諭資格関連分野		英米文学の流れ		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)		○	
				英米小説と女性		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)		○	
				異文化コミュニケーション		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)		○	
	演習		比較文化論		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○		
			卒業研究ゼミナール	2		演習	通年			2		×		
	卒業研究	4		演習	通年				4	×				

註1: 小学校教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、■印の科目を全て履修しなければならない。

さらに△印の科目から3科目6単位以上履修しなければならない。

註2: 幼稚園教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、※印の科目を全て履修しなければならない。

さらに●印の科目から1科目2単位以上履修しなければならない。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

児童教育学科 カリキュラムマップ

☐ → 必修

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
教職基礎・ 教科教育学分野	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義や可能性を講義、テキスト、演習をとおして確実に理解し、自己の進路選択にいかすことができる。 ・学校の価値や可能性を理解し、自己のなすべき職責を理解することができる。 ・教員としての資質や能力について理解し、自ら学び続ける力の基礎を養うことができる。 	教職入門A			
	教育学や教育理論を理解し… <ul style="list-style-type: none"> ・今日の社会を理解するための価値観を養うことができる。 ・そのなかから課題を発見し追究する力の基礎を養うことができる。 ・自己の課題を発見し、その課題を解決するための基礎力を養うことができる。 	教育学概論A 教育心理学A 学校制度論A 特別な教育的ニーズの理解と支援A 特別支援学校教育概論	知的障害教育概論 肢体不自由教育概論 病弱教育概論	視覚障害教育概論 聴覚障害教育概論 重複障害教育概論	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科や領域等における教育目標や教育内容を理解し、指導過程を構想することができる。 ・学校教育における授業の役割を理解し、子どもの考えや反応を生かした指導をする態度を養うことができる。 ・教材や題材の役割を理解し、背景となる文化との関わりを踏まえ、教材研究を行うことができる。 	保育内容総論	教育課程論A 教育課程論B 初等国語科教育 初等算数科教育 初等理科教育 初等体育科教育 初等図画工作科教育 初等社会科教育 初等生活科教育 初等英語科教育 教材研究A 教材研究B 道徳教育B 特別活動A 特別活動B 教育方法A 教育方法B 保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（健康） 保育内容の指導法（音楽表現） 特別支援教育指導法 知的障害教育課程論 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ	初等音楽科教育 初等家庭科教育 授業研究A 授業研究B 道徳教育A 保育内容の指導法（造形表現） 肢体不自由教育課程論 病弱教育課程論 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスの役割を理解し、子どもの背景を理解した上で、教育相談を展開する基礎を養うことができる。 ・集団の機能と役割を理解し、子どもの実態に応じた生活訓練や生徒指導を行う基礎を養うことができる。 ・学習指導と生徒指導の機能的な関連を理解し、学級経営に関するプランを構想することができる。 		生徒指導・進路指導A 幼児理解の理論と方法	生徒指導・進路指導B 教育相談A 教育相談B		
教職実践分野	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの性格や行動を理解し、集団のなかでの遊びや活動を通し、子どもと交流することができる。 ・学校の責務や教員としての使命を自覚し、集団の一員として公務に携わることができる。 ・確かな学力を育む学習指導や生徒指導を行う基本が身につくことができる。 			教育実習事前事後指導 幼稚園教育実習 (事前事後指導含む)	教育実習 特別支援学校教育実習 (事前事後指導含む) 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
教職実践分野	<p>教職履修カルテを通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の学習課題を認識し、不足した知識・技能を補充する意識が持てることができる。 自己に必要な教育理論の修得を行うことができる。 自己に必要な教育技術の修得を行うことができる。 				教職実践演習（幼・小・中・高）
教科専門分野	<ul style="list-style-type: none"> 教科の背景となる人文・社会科学の知見に関して、主体的に学ぶことができる。 教科の背景となる芸術・文化の知見に関して、主体的に学ぶことができる。 教科の背景となる環境等学際領域の知見に関して、主体的に学ぶことができる。 	国語 算数 図画工作 社会 生活 理科 知的障害の心理・生理・病理 肢体不自由の心理・生理・病理 病弱の心理・生理・病理	音楽 体育 家庭 外国語（英語）		
教科・教職融合分野	<ul style="list-style-type: none"> 教科とその背景となる学問・芸術・文化等との接点に関する理解を深めることができる。 各教科や領域等の連続性や独自性を理解することができる。 最新の教育事情、教育技術に関する知識・技能を修得することができる。 	表現活動（基礎） 表現活動（応用） 教職基礎演習 ピアノ奏法演習 書写・文章表現演習（基礎）	学習指導と学校図書館 教職発展演習 学級経営と教科指導 書写・文章表現演習（応用）	外国語活動 総合的な学習の時間の授業づくりA ICT教育と教科指導 理科実験・観察演習 教育行政概論	教職応用演習
英語教諭資格関連分野	<ul style="list-style-type: none"> 教科の背景となる英米文法に関する内容を理解することができる。 教科の背景となる英米音声学に関する内容を理解することができる。 教科の背景となる英米語表現に関する内容を理解することができる。 	ことばのしくみ 英語学 英語音声学Ⅰ（子音と母音） 英語音声学Ⅱ（発話実践） ことばへの気づきワークショップ			
	<ul style="list-style-type: none"> 教科の背景となる英米文学史に関する内容を理解することができる。 教科の背景となる英米文学研究に関する内容を理解することができる。 	英米文学の流れ 英米小説と女性			
	<ul style="list-style-type: none"> 教科の背景となる異文化に関する理解を深めることができる。 教科の背景となる異文化間のコミュニケーションに関する知識・技能を修得することができる。 	異文化コミュニケーション 比較文化論			
演習	<ul style="list-style-type: none"> 教育学や教育理論に関する学修を深め、自己の学修課題に沿って、研究を深めることができる。 仲間との共同学修を通して、自己の学修課題を省察したり、他者へ建設的なアドバイスができる。 自己の研究課題を設定するための資料を収集し、自己研究課題が設定できるようになる。 			卒業研究ゼミナール	卒業研究
DP	<p>児童教育学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員のあり方（教員の使命感、豊かな人間性、教養、コミュニケーション能力、学校教育に関する諸法令、学校の組織と服務）について理解している。 2. 各教科等における実践的な指導力（学習指導要領の理解、教材研究、教材解釈と授業づくり、単元指導計画の作成、指導方法・技術、教育評価、授業改善、特別支援教育、キャリア教育、プログラミング教育）を身につけている。 3. 学級経営に関する知識・技能（学級づくり、生活指導、教育相談、保護者・地域との連携）を身につけている。 4. 卒業後に円滑に教員としての仕事ができるよう、教職に関する学修を自ら統合し、教員として最小限必要となる資質や能力を身につけている。 				
CP	<p>児童教育学科では、教員として最小限必要となる資質や能力を養うために、講義や演習、実技、学校インターンシップ、教育実習等を通して、教育学や教育理論と教育実践との往還的な学修を深める。</p> <p>そのなかで教育の原理や原則を現実の社会に適応させ、今日の社会において課題を発見し、解決していく基本となる態度や能力を養う教育課程を編成する。</p>				

Ⅲ

人間発達心理学科 (KC)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科専門科目	必修	38単位	90単位
	選択	52単位	
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、必修科目38単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目52単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目60単位取得した場合は、8 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓
a~c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考	
	必修	選択			1年	2年	3年	4年			
生涯発達科目	心理学概論	※2		講義	前期	2				×	
	発達心理学概論 (発達心理学)	※2		講義	前期	2				×	
	乳幼児期の心理学	2		講義	前期		2			×	
	児童期の心理学	2		講義	前期		2			×	
	青年期の心理学	2		講義	前期		2			×	
	中高年期の心理学	2		講義	前期			2		×	
心理学基礎論		2		講義	前期	(2)	(2)	(2)	×	繰り返し受講可	
専門科目	臨床心理学概論	※2		講義	後期	2				×	
	発達臨床心理学 (発達心理学)	※2		講義	前期		2			×	
	カウンセリング理論	2		講義	後期	2				×	
	精神保健		2	講義	後期		(2)	(2)		×	
	乳幼児期の心理臨床		2	講義	後期		(2)	(2)		×	
	児童期から青年期の心理臨床		2	講義	後期		(2)	(2)		×	
	中高年期の心理臨床		2	講義	後期			(2)	(2)	×	
	障害者・障害児心理学		※2	講義	前期			(2)	(2)	×	
	心理療法		2	講義	前期			(2)	(2)	×	
発達臨床フィールドワーク		2	講義	後期			(2)	(2)	×		
研究法・実習科目	心理学入門演習	2		演習	前期		2			×	
	人間発達演習	2		演習	後期			2		×	
	発達心理学外書講読		2	講義	前期			(2)	(2)	○	
	心理学研究法	※2		講義	後期		2			×	
	心理学統計法	※2		講義	前期	2				×	
	心理学情報処理法	2		講義	後期	2				×	
	心理学実験	※2		演習	後期	2				×	

註：※印の科目は公認心理師資格取得に必須の科目である。

[人間発達心理学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年		
専 門 科 目	心理アセスメント入門	2		演習	前期		2			×	
	データ解析法		2	講義	前・後			2		×	
	心理学実験演習		2	演習	前期		(2)	(2)		×	繰り返し受講可
	調査法		2	講義	前・後		(2)	(2)		×	} 2科目4単位履修
	面接法		2	講義	前・後		(2)	(2)		×	
	観察法		2	講義	前・後		(2)	(2)		×	
	心理検査法		2	講義	前・後		(2)	(2)		×	
	実験計画法		2	講義	前・後		(2)	(2)		×	
	心理検査法応用		2	講義	後期			(2)	(2)	×	
	カウンセリング技法		2	講義	後期			2		×	
	教育・学校心理学		※2	講義	後期			(2)	(2)	×	
	発達支援活動		2	実習	前・後		(2)	(2)	(2)	×	繰り返し受講可
	社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	※2		講義	後期	2				×	
	コミュニケーションの心理学		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)		○	
	対人関係の心理学		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
	グループダイナミクス		2	講義	前期		(2)	(2)		○	
	家族心理学(社会・集団・家族心理学)		※2	講義	後期		(2)	(2)		×	
	産業心理学(産業・組織心理学)		※2	講義	後期		(2)	(2)		×	
	司法・犯罪心理学		※2	講義	前期		(2)	(2)		×	
	職場のメンタルヘルス(産業・組織心理学)		※2	講義	前期			(2)	(2)	×	
	社会行動の心理学		2	講義	前・後			(2)	(2)	○	繰り返し受講可
	キャリア発達心理学		2	講義	後期			(2)	(2)	×	
	感情・人格心理学		※2	講義	後期	(2)	(2)	(2)		×	
	心理学リテラシー		2	講義	前期	(2)	(2)			×	繰り返し受講可
	子どもの発達と環境		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)		×	
	知覚・認知心理学		※2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	×	
	身体運動の心理学		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	×	
	知覚心理学		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	×	
	恋愛と結婚の科学		2	講義	前期			(2)	(2)	×	
	健康・医療心理学		※2	講義	後期			(2)	(2)	×	
神経・生理心理学		※2	講義	前期			(2)	(2)	×		
文化と心理学		2	講義	前期			(2)	(2)	○		
臨床現場の心理学		2	講義	後期			(2)	(2)	×		
教育心理学		2	講義	後期	(2)	(2)			×		
学習・言語心理学		※2	講義	前期		(2)	(2)		×		
子どもの生活と保健		2	演習	前期		(2)	(2)		×		
生徒指導		2	講義	前期			(2)	(2)	×		
教育相談		2	講義	前期			(2)	(2)	×		

註：※印の科目は公認心理師資格取得に必須の科目である。

【人間発達心理学科】

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授 業 科 目		単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 科 目	教 育 ・ 保 健 科 目	学校保健 I		2	講義	前期	(2)	(2)			×	
		健康相談活動		2	講義	後期			(2)	(2)	×	
		福祉心理学		※2	講義	前期		(2)	(2)		×	
		免疫学		2	講義	前期	(2)	(2)			×	
		栄養学		2	講義	前期	2				×	
		解剖生理学		2	講義	後期	2				×	
		公衆衛生学		2	講義	前期		(2)	(2)		×	
		看護学概論		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	×	
		リハビリテーション論		2	講義	前期		(2)	(2)		○	
		看護援助方法		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	×	
		小児保健看護学		2	講義	前期			(2)	(2)	×	
	家庭の応急手当		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	×		
	公 認 心 理 師 関 連 科 目	関係行政論		※2	講義	前期		(2)	(2)		×	
		人体の構造と機能及び疾病		※2	講義	後期		(2)	(2)		×	
		公認心理師の職責		※2	講義	後期		(2)	(2)		×	
		精神疾患とその治療		※2	講義	後期		(2)	(2)		×	
		心理的アセスメント		※2	演習	後期			(2)	(2)	×	
		心理学的支援法		※2	演習	後期			(2)	(2)	×	
		心理演習		※2	演習	後期			(2)	(2)	×	
心理実習		※2	実習	前・後				2	×			
卒 業 研 究	4			演習	通年				4	×		

注：※印の科目は公認心理師資格取得に必須の科目である。

【専門科目の履修について】

注1：選択必修科目として指定されている科目について、規定の単位数を超えて履修した単位は、選択科目に含めることができる。

注2：原則として、「卒業研究」は以下の条件をすべて満たしている場合に限り履修可能である。

①3年次後期までの単位数が卒業要件科目のうち84単位以上であること。

②次の科目の単位数を修得していること。

「心理学概論」「臨床心理学概論」「発達心理学概論」「心理学研究法」「人間発達演習」

注3：原則として、「人間発達演習」は以下の条件をすべて満たしている場合に限り履修可能である。

①3年次前期までの単位数が卒業要件科目のうち60単位以上であること。

②「心理学基礎実験」の単位を修得していること。

③3年次前期までに、研究法・実習科目である「実験計画法」「調査法」「心理検査法」「観察法」「面接法」のうち、少なくとも1科目(2単位)を修得していること。

【資格の履修について】

注1：社会福祉主事任用資格の取得希望者は、以下の科目のうち3科目を履修する必要がある。

「心理学概論」「精神保健」「栄養学」「公衆衛生学」「看護学概論」「リハビリテーション論」

注2：「心理的アセスメント」「心理学的支援法」「心理演習」を履修するためには、3年前期までの公認心理師資格取得に必須の科目計22科目のうち、18科目の単位を修得している必要がある。

注3：「心理実習」を履修するためには、「心理的アセスメント」「心理学的支援法」の単位を修得している必要がある。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

人間発達心理学科 カリキュラムマップ

■ → 必修

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
生涯発達科目	<ul style="list-style-type: none"> 心理学の主な領域における基本的な理論や概念、実証的・科学的な考え方について理解することができる。 人の生涯にわたる発達の過程と要因に関する基礎的な理論を理解し、各発達段階における専門的な知識を習得することができる。 生涯発達に関する心理学的な知見に興味をもち、自ら調べ考えようとする態度を養うことができる。 	心理学概論 発達心理学概論 (発達心理学)	乳幼児期の心理学 児童期の心理学 青年期の心理学 心理学基礎論	中高年期の心理学	
		臨床心理学概論 カウンセリング理論	発達臨床心理学 (発達心理学) 精神保健 乳幼児期の心理臨床 児童期から青年期の心理臨床	中高年期の心理臨床 障害者・障害児心理学 心理療法 発達臨床フィールドワーク	
心理臨床科目	<ul style="list-style-type: none"> 心理臨床における基本的な理論や概念を学び、人々の心や行動の特徴を分析的に考える力を育成することができる。 心理臨床における知識や技能を修得し、生涯発達の視点をもちつつ、自らおよび周囲の人々の心の健康を保持するために、生活の中で活用する方法を理解することができる。 心理臨床の各領域における知識・技能を用いて、日常生活における課題の解決に臨む意欲を養うことができる。 				
研究法・実習科目	<ul style="list-style-type: none"> 人間の心と行動に対する経験則的な理解と、実証的・科学的な考え方の違いについて理解し、適切な研究方法を自ら考える力を養うことができる。 心理学的な研究法から得られた実証的なデータについて、コンピュータを活用した統計的な解析をもとに、客観的・科学的な判断を考えることができる。 心理学的な興味に基づいて実施された実験・調査・面接・観察・検査等で得られたデータを分析し、自ら導いた考察や結論を、客観的かつ論理的に表現する力を育成することができる。 	心理学統計法 心理学情報処理法 心理学実験	心理学入門演習 心理学研究法 心理アセスメント入門 心理学実験演習 調査法 面接法 観察法 心理検査法 実験計画法	人間発達演習 発達心理学外書講読 データ解析法	
				心理検査法応用 カウンセリング技法 教育・学校心理学	発達支援活動
社会科目	<ul style="list-style-type: none"> 人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭、家族、対人関係、企業活動）に関する基本的な理論や概念について学び、人々の心や行動の特徴を分析的に考える力を養うことができる。 社会における経験が心理学的手法を用いてどのように説明されるのかを学び、人間の心と行動に対する経験則的な理解と、実証的・科学的な考え方の違いを判断する力を身につけることができる。 人間の心と社会とのつながりに関する基本的な理論や概念を用いて、日常生活での経験を分析し、実際にそれらを活用する方法を自ら考える力を育成することができる。 	社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学) コミュニケーションの心理学	対人関係の心理学 グループダイナミクス 家族心理学 (社会・集団・家族心理学) 産業心理学 (産業・組織心理学) 司法・犯罪心理学		職場のメンタルヘルス (産業・組織心理学) 社会行動の心理学 キャリア発達心理学

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
生活科目	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における経験が心理学ではどのように研究されているのかを学び、心理学の理論・概念・技能を人間生活で活用していく方法について考える力を養うことができる。 心理学の様々な研究領域に触れる中で、興味関心を持った事柄について自ら調べ考えようとする姿勢を養い、心理学の基礎的な知識や技能に基づいた考察や結論を導く力を養うことができる。 制度や環境といった社会的な視野および生涯発達（誕生から死に至るまでの発達）という視点から、日常生活における環境を発見・分析し、自らおよび周囲の人々の心や体の健康を保持増進させようとする姿勢を養うことができる。 	感情・人格心理学 心理学リテラシー 子どもの発達と環境	知覚・認知心理学 身体運動の心理学 知覚心理学	恋愛と結婚の科学 健康・医療心理学 神経・生理心理学 文化と心理学 臨床現場の心理学	
		教育心理学	学習・言語心理学 子どもの生活と保健	生徒指導 教育相談 健康相談活動	
教育・保健科目	<ul style="list-style-type: none"> 身体の健康に関する領域の基礎的な知識と基本的な技能を身につけることができる。 自らおよび周囲の人々の心と身体の健康を保持増進するために、専門的な知識・技能を習得し、それらを活用しようとする意欲を育成することができる。 社会的な視野・および生涯発達という視点から、教育現場における課題を見出すとともに、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を用いて、その解決に臨む意欲を養うことができる。 	学校保健 I 免疫学 栄養学 解剖生理学	福祉心理学 公衆衛生学 看護学概論 リハビリテーション論 看護援助方法	小児保健看護学	
		関係行政論 人体の構造と機能及び疾病 公認心理師の職業 精神疾患とその治療			
公認心理師関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師としての職責を理解し、心理学的支援に関する専門的な知識と技能を身につけることができる。 具体的な体験や支援活動を通して、心理に関する専門的な知識及び技能と支援を行う関係者の役割分担を概念化・理論化し、体系立てることができる。 社会の変化に伴う心理学的課題を自ら発見し、専門職として生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を養うことができる。 			心理的アセスメント 心理学的支援法 心理演習	心理実習
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 心理学における実証的な研究方法の進め方を理解し、自ら見出したテーマに沿って研究を行うことができる。 データの分析から得られた資料に基づいて、自ら導いた考察や結論を、客観的かつ論理的に表現することができる。 社会的な視野・および生涯発達という視点から、心理学的な知見を人間生活に対して還元しようとする姿勢を養うことができる。 				卒業研究

DP 人間発達心理学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる。
2. 心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける。
3. 専門教育で習得した理論・概念・知識・技能により、生活支援能力や身体のケア能力を身につける。

CP 人間発達心理学科では、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身に付けさせるため、教育課程として7領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。

1. 「生涯発達科目」では、心理学の基本的な理論や概念、実証的・科学的な考え方に基づき、人間の発達過程に対する多面的かつ複合的な理解を深める。
2. 「心理臨床科目」では、心理臨床における知識や技能を習得し、個々の発達段階における危機的課題への支援・援助の理論や知識を、具体的な事例の理解とともに修得する。
3. 「研究法・実習科目」では、人間のこころと行動を実証的・科学的にとらえて分析し、援助する技能を養うことを目標に、体験的に学ぶ。
4. 「社会科目」では、心理学に基づく視点から、社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）の特性、ならびにそれぞれの場における人びとの心と行動を分析的に考える力を養う。
5. 「生活科目」では、制度や環境といった社会的な視野および生涯発達（誕生から死に至るまでの発達）という視点から、日常生活における課題を発見・分析し、自らおよび周囲の人々の心や体の健康を保持増進させようとする姿勢を養う。
6. 「教育・保健科目」では、社会的な視野および生涯発達という視点から、教育現場における課題を見出し、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を用いて、その解決に臨む意欲を養う。
7. 「公認心理師関連科目」では、心理学的支援を必要とする人への専門的な相談・助言・指導等の支援方法を習得し、かつチーム支援や他職種・他機関との連携・協働について学ぶ。

Ⅲ

人間福祉学科 (KD)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科専門科目	必修	27単位	90単位
	選択	63単位	
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、必修科目27単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124 単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目63単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目70単位取得した場合は、7 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓
a~c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考	
	必修	選択			1年	2年	3年	4年			
社会福祉基礎科目	社会福祉概論Ⅰ	2		講義	前期	2				×	*
	社会福祉概論Ⅱ	2		講義	後期	2				×	
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	2		講義	後期	2				×	*
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		○●2	講義	前期		2			×	
	児童・家庭福祉論	2		講義	前期	2				×	
	障害者福祉論	2		講義	後期	2				×	
	医学一般		○●2	講義	前期	2				×	*
	権利擁護と成年後見制度		○●△2	講義	前期			2		×	
	心理学理論と心理的支援		○●2	講義	前期			2		×	*
	社会保障論Ⅰ	2		講義	前期			2		○	*
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2		講義	後期	2				×	*
	社会的養護Ⅰ		▲2	講義	前期		2			×	
	地域福祉論Ⅰ	2		講義	前期		2			×	*
ソーシャルワーク専門科目	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		講義	前期		2			×	*
	ソーシャルワーク論Ⅲ		○△2	講義	後期		2			×	
	ソーシャルワーク論Ⅳ		○△2	講義	前期			2		×	
	ソーシャルワーク論Ⅴ		○△2	講義	後期			2		×	
	ソーシャルワーク論Ⅵ		○△2	講義	前期				2	×	
	就労支援サービス論		○2	講義	後期		2			×	
	地域福祉論Ⅱ		○△2	講義	後期		2			×	*
	社会調査の基礎		○2	講義	前期		2			×	*
福祉行財政と福祉計画		○2	講義	後期			2		×	*	

註：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。

註：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。

註：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。

註：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

[人間福祉学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考	
	必修	選択			1年	2年	3年	4年			
ソーシャルワーク専門科目	社会理論と社会システム		○2	講義	後期		2			×	*
	公的扶助論	2		講義	前期			2		×	*
	保健医療サービス論		○2	講義	前期			2		×	
	社会保障論Ⅱ		○△2	講義	後期			2		×	*
	更生保護制度		○2	講義	後期			2		×	
	社会福祉施設経営論		○2	講義	後期			2		×	*
	相談援助演習Ⅰ		○1	演習	後期	1				×	
	相談援助演習Ⅱ		○1	演習	前期		1			×	
	相談援助演習Ⅲ		○1	演習	後期		(1)	(1)		×	
	相談援助演習Ⅳ		○1	演習	前期			(1)	(1)	×	
相談援助演習Ⅴ		○1	演習	後期			(1)	(1)	×		
専門科目	基礎介護論Ⅰ		●2	講義	前期	2				×	介護のみ
	基礎介護論Ⅱ		●2	講義	後期	2				×	介護のみ
	介護と倫理		●2	講義	前期		2			×	介護のみ
	介護と環境		●2	講義	前期			2		×	介護のみ
	コミュニケーション技術Ⅰ		●1	演習	後期	1				×	介護のみ
	コミュニケーション技術Ⅱ		●1	演習	前期		1			×	介護のみ
	生活支援技術概論		●1	演習	前期	1				×	介護のみ
	日常生活支援技術Ⅰ		●1	演習	前期	1				×	介護のみ
	日常生活支援技術Ⅱ		●1	演習	後期	1				×	介護のみ
	日常生活支援技術Ⅲ		●1	演習	後期	1				×	介護のみ
	生活環境支援技術		●1	演習	後期		1			×	介護のみ
	家事生活支援技術		●1	演習	前期		1			×	介護のみ
	生活支援技術応用Ⅰ		●1	演習	前期		1			×	介護のみ
	生活支援技術応用Ⅱ		●1	演習	後期		1			×	介護のみ
	生活支援技術展開Ⅰ		●1	演習	前期		1			×	介護のみ
	生活支援技術展開Ⅱ		●1	演習	後期			1		×	介護のみ
	介護過程基礎Ⅰ		●2	講義	後期	2				×	介護のみ
	介護過程基礎Ⅱ		●2	講義	前期		2			×	介護のみ
	介護過程展開Ⅰ		●1	演習	後期		1			×	介護のみ
	介護過程展開Ⅱ		●1	演習	前期			1		×	介護のみ
介護サービス計画		●2	講義	後期			2		×	介護のみ	
発達と老化Ⅰ		●2	講義	前期	2				×		
発達と老化Ⅱ		●2	講義	後期	2				×		

註：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。

註：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。

註：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。

註：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

[人間福祉学科]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考	
	必修	選択			1年	2年	3年	4年			
ケアワーク専門科目	認知症の理解Ⅰ		●2	講義	前期		2			×	
	認知症の理解Ⅱ		●1	演習	後期		1			×	
	障がいの理解Ⅰ		●△2	講義	前期		2			×	
	障がいの理解Ⅱ		●△2	講義	後期		2			×	
	こころとからだのしくみⅠ		●2	講義	前期		2			×	
	こころとからだのしくみⅡ		●2	講義	後期		2			×	
	医療を必要とする人への介護Ⅰ		●2	講義	前期			2		×	介護のみ
	医療を必要とする人への介護Ⅱ		●2	講義	前期			2		×	介護のみ
	医療を必要とする人への介護Ⅲ		●2	講義	後期			2		×	介護のみ
	医療を必要とする人への介護Ⅳ		●1	演習	後期			1		×	介護のみ
専門科目 保育専門科目	保育原理		▲2	講義	前期	2				×	
	教育原理		▲2	講義	後期		2			×	
	保育者論		▲2	講義	前期			2		×	保育のみ
	保育の心理学		▲2	講義	前期	2				×	
	子ども家庭支援の心理学		▲2	講義	後期	2				×	保育のみ
	子どもの保健		▲2	講義	前期		2			×	
	子どもの健康と安全		▲2	演習	後期		2			×	保育のみ
	子どもの理解と援助		▲2	演習	後期	2				×	保育のみ
	子どもの食と栄養		▲2	演習	前期		2			×	保育のみ
	子ども家庭支援論		▲2	講義	後期		2			×	
	保育の計画と評価		▲2	講義	前期			2		×	保育のみ
	保育内容総論		▲1	演習	後期	1				×	保育のみ
	保育内容演習Ⅰ（健康）		▲2	演習	後期	2				×	保育のみ
	保育内容演習Ⅱ（人間関係）		▲2	演習	前期		2			×	保育のみ
	保育内容演習Ⅲ（環境）		▲2	演習	後期		2			×	保育のみ
	保育内容演習Ⅳ（言葉）		▲2	演習	前期		2			×	保育のみ
	保育内容演習Ⅴ（表現）		▲2	演習	前期			2		×	保育のみ
	保育内容の理解と方法Ⅰ（健康）		▲2	演習	前期	2				×	保育のみ
	保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係）		▲2	演習	後期	2				×	保育のみ
	保育内容の理解と方法Ⅲ（環境）		▲2	演習	前期		2			×	保育のみ
	保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉）		▲2	演習	後期	2				×	保育のみ
	保育内容の理解と方法Ⅴ（表現）		▲2	演習	後期		2			×	保育のみ
乳児保育Ⅰ		▲2	講義	前期		2			×	保育のみ	
乳児保育Ⅱ		▲1	演習	後期		1			×	保育のみ	

注：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。

注：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。

注：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。

注：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

[人間福祉学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

	授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考	
		必修	選択			1年	2年	3年	4年			
専 門 科 目	保 育 専 門 科 目	障害児保育		▲2	演習	前期		2			×	保育のみ
		社会的養護Ⅱ		▲1	演習	後期		1			×	保育のみ
		社会的養護Ⅲ		▲1	演習	前期			1		×	保育のみ
		子育て支援Ⅰ		▲2	演習	前期			2		×	保育のみ
		子育て支援Ⅱ		▲2	演習	後期			2		×	保育のみ
		ピアノ		△1	演習	前・後	(1)	(1)	(1)	(1)	×	保育のみ
		発達障害の理解		△2	講義	後期		2			×	
		保育サービス論		2	講義	前期				2	×	
	社 会 福 祉 実 践 科 目	相談援助実習指導Ⅰ		○1	演習	前期		(1)	(1)		×	
		相談援助実習指導Ⅱ		○1	演習	後期		(1)	(1)		×	
		相談援助実習指導Ⅲ		○2	演習	通年			(2)	(2)	×	
		社会福祉実習		○4	実習	通年			(4)	(4)	×	
		介護総合演習Ⅰ		●1	演習	後期	1				×	介護のみ
		介護総合演習Ⅱ		●1	演習	後期		1			×	介護のみ
		介護総合演習Ⅲ		●1	演習	前期			1		×	介護のみ
		介護総合演習Ⅳ		●1	演習	後期			1		×	介護のみ
		介護実習Ⅰ		●2	実習	後期	2				×	介護のみ
		介護実習Ⅱ-1		●4	実習	後期		4			×	介護のみ
		介護実習Ⅱ-2		●4	実習	前期			4		×	介護のみ
		保育実践演習		▲2	演習	後期			2		×	保育のみ
		保育実習ⅠA		▲2	実習	前・後			2		×	保育のみ
		保育実習ⅠB		▲2	実習	前・後			2		×	保育のみ
	保育実習指導Ⅰ		▲2	演習	通年		2			×	保育のみ	
	保育実習Ⅱ		★△2	実習	後・前			(2)	(2)	×	保育のみ 3年生は後期 4年生は前期	
	保育実習指導Ⅱ		★△1	演習	前期			1		×	保育のみ	
	保育実習Ⅲ		☆△2	実習	後・前			(2)	(2)	×	保育のみ 3年生は後期 4年生は前期	
	保育実習指導Ⅲ		☆△1	演習	前期			1		×	保育のみ	
	社 会 福 祉 展 開 科 目	公的扶助特論		2	講義	後期			2		○	
		ボランティア・コーディネーション		2	講義	前期	(2)	(2)	(2)	(2)	○	
		介護基礎		2	講義	前期	2				×	
		手話		2	講義	後期	(2)	(2)	(2)	(2)	×	

註：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。
註：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。

註：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。

註：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

保育士資格
取得希望者
は★印の2
科目3単位
又は、☆印
の2科目3
単位以上を
履修するこ
と

[人間福祉学科]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授 業 科 目		単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 科 目	社会福祉 展開科目	ケア論		△2	講義	前期	(2)	(2)	(2)	(2)	○	
		医療ソーシャルワーク論		2	講義	前期			(2)	(2)	×	
	演 習	人間福祉基礎演習	1		演習	前期		1			×	
		人間福祉演習	2		演習	通年			2		×	
	卒 業 研 究	卒業研究	4		演習	通年				4	×	

註1：社会福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必修科目に加えて○印の科目を全て履修しなければならない。

註2：介護福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必修科目に加えて●印の科目を全て履修しなければならない。

註3：保育士資格取得希望者は必修科目に加えて▲印の科目を全て履修しなければならない。さらに△印から4単位以上履修すること。そのうち「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」、または「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」のどちらか3単位以上を履修しなければならない。

註4：社会福祉主事任用資格の取得のためには、備考欄に*印がついている科目のうち、3科目以上を履修しなければならない。ただし、「社会福祉概論」「社会保障論」「高齢者に対する支援と介護保険制度」「地域福祉論」は「ⅠとⅡ」の両方を、「ソーシャルワーク論」は「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」を合わせて取得して1科目の履修とする。

註5：「人間福祉演習」を履修するためには、60単位以上修得していなければならない。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

人間福祉学科 カリキュラムマップ

■ → 必修 □ → 介護のみ □ → 保育のみ

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
社会福祉基礎科目	<p>社会福祉に関連する主要な法・制度について、説明することができる。</p> <p>社会福祉に関連する主要な法・制度のおよその概要と対応するおよその福祉分野の現状とその課題について、</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の見解を形成することができる。 人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値に基づいた自分の批判的な見解を述べることができる。 	社会福祉概論Ⅰ 社会福祉概論Ⅱ 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ 児童・家庭福祉論 障害者福祉論 医学一般 ソーシャルワーク論Ⅰ	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ 社会的養護Ⅰ 地域福祉論Ⅰ	権利擁護と成年後見制度 心理学理論と心理的支援 社会保障論Ⅰ	
	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉や隣接分野に関連する法・制度を理解し、相談援助の展開過程に必要な理論や技術を用いて、課題解決に向けた方法を論理的思考に基づいて、自ら提案することができる。 専門的援助関係を形成していくうえで必要な自己覚知を深め、相談援助における基礎的なコミュニケーション技術や面接技術を実践的に習得できるよう、また実習経験後の個別的な体験を一般化・理論化できるまでに理解を深めることができる。 ソーシャルワークにおける専門職倫理を理解し、人々の生活課題や困難性の背景にある現代社会の諸問題に対し常に目を向け、問題意識を自ら持つことができる。 	相談援助演習Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅲ 就労支援サービス論 地域福祉論Ⅱ 社会調査の基礎 社会理論と社会システム 相談援助演習Ⅱ	ソーシャルワーク論Ⅳ ソーシャルワーク論Ⅴ 福祉行財政と福祉計画 公的扶助論 保健医療サービス論 社会保障論Ⅱ 更生保護制度 社会福祉施設経営論	ソーシャルワーク論Ⅵ
ソーシャルワーク専門科目			相談援助演習Ⅲ	相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ	
ケアワーク専門科目	<ul style="list-style-type: none"> 福祉的支援を必要とする人々への生活支援に関する理論の基本的枠組みを習得することができる。 福祉的支援を必要とする人々へのコミュニケーションスキルを習得し、その専門的援助関係の基本を構築することができる。 援助・支援に関する理論や知識を統合し、実習教育における個別の事例に合わせて介護計画を立案し、実施することができる。 	基礎介護論Ⅰ 基礎介護論Ⅱ コミュニケーション技術Ⅰ 生活支援技術概論 日常生活支援技術Ⅰ 日常生活支援技術Ⅱ 日常生活支援技術Ⅲ 介護過程基礎Ⅰ 発達と老化Ⅰ 発達と老化Ⅱ	介護と倫理 コミュニケーション技術Ⅱ 生活環境支援技術 家事生活支援技術 生活支援技術応用Ⅰ 生活支援技術応用Ⅱ 生活支援技術展開Ⅰ 介護過程基礎Ⅱ 介護過程展開Ⅰ 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ 障がいの理解Ⅰ 障がいの理解Ⅱ こころとからだのしくみⅠ こころとからだのしくみⅡ	介護と環境 生活支援技術展開Ⅱ 介護過程展開Ⅱ 介護サービス計画 医療を必要とする人への介護Ⅰ 医療を必要とする人への介護Ⅱ 医療を必要とする人への介護Ⅲ 医療を必要とする人への介護Ⅳ	
	<ul style="list-style-type: none"> 保育に関する法・制度の概要を理解し、児童の発達に即した保育を展開することができる。 必要なニーズを把握・分析し、保育を構想することができる。 子どもを取り巻く現状とその課題について関心をもち、子どもの最善の利益という価値に基づき自らの見解を述べることができる。 	保育原理 保育の心理学 子ども家庭支援の心理学 子どもの理解と援助 保育内容総論 保育内容の理解と方法Ⅰ（健康） 保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係） 保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉） 保育内容演習Ⅰ（健康）	教育原理 子どもの保健 子どもの健康と安全 子どもの食と栄養 子ども家庭支援論 保育内容の理解と方法Ⅲ（環境） 保育内容の理解と方法Ⅴ（表現） 保育内容演習Ⅱ（人間関係） 保育内容演習Ⅲ（環境） 保育内容演習Ⅳ（言葉） 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 障害児保育 社会的養護Ⅱ	保育者論 保育の計画と評価 保育内容演習Ⅴ（表現） 社会的養護Ⅲ 子育て支援Ⅰ 子育て支援Ⅱ	
保育専門科目		発達障害の理解		保育サービス論	
		ピアノ			

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
社会福祉実践科目	<ul style="list-style-type: none"> 指導・支援に係る知識と技術を統合し、個別の学習到達目標を達成できるように、主体的に取り組み、実習での日々の学習内容や実習後の学習成果を言語化し、他者に伝えることができる。 実習で関わる対象者の理解を深め、専門職の役割について理解した上で、信頼関係の構築や指導、支援計画の立案、具体的な援助方法、多職種協働、評価方法について実践的に習得することができる。 人々との関わりを通して、専門職としての自己覚知を深め、個々への尊敬のもと、各専門職として求められる資質、価値、倫理等、総合的に習得することができる。 	介護総合演習Ⅰ 介護実習Ⅰ	相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 介護総合演習Ⅱ 介護実習Ⅱ-1 保育実習指導Ⅰ	相談援助実習指導Ⅲ 社会福祉実習 介護総合演習Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護実習Ⅱ-2 保育実習ⅠA 保育実習ⅠB 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実践演習 公的扶助特論	
社会福祉展開科目	<ul style="list-style-type: none"> 福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を選択的に学ぶことができる。 社会問題の解決や支援の現状について実践的・総合的にとらえ、専門職の社会的役割を踏まえた意見を表明できるよう専門性を高めることができる。 時代や社会の変化に伴う福祉課題の変化をふまえて、常に新しい課題に関心と意欲をもって、専門職として学び続ける態度を身につけることができる。 	ボランティア・コーディネーション 介護基礎 手話 ケア論		医療ソーシャルワーク論	
演習	<ul style="list-style-type: none"> 自己の社会福祉への課題に関心を持ち、その解決へ向けた方法の提案や行動ができる高い専門性と倫理を身につけることができる。 人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について論述することができる。 人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について発表することができる。 		人間福祉基礎演習 人間福祉演習		卒業研究
DP	人間福祉学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている。 2. 福祉的支援を必要とする人々の「生活の質」の向上や地域における「共生」をめざし、社会福祉学を基盤とする相談援助、介護・保育の実践に関する知識に基づき、生活課題の問題点を複合的に思考し、判断することができる。 3. 家族や地域社会への働きかけ及び社会全体への問題提起・問題解決方法の提案ができる高い専門性と倫理に関する知識を理解することができる。				
CP	人間福祉学科では、学科全員が共通に学ぶ「社会福祉基礎科目」、目指す専門性に応じて選択する「ケアワーク科目」「保育科目」「ソーシャルワーク科目」、さらに学外での実習をとまなう「社会福祉実践科目」、福祉専門職としての資質向上やより学際的分野への学びを深める「社会福祉展開科目」を設ける。				

Ⅲ

健康栄養学科 (KE)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科専門科目	必修	42単位	90単位
	選択	48単位	
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、必修科目42単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目48単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目50単位取得した場合は、2単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓
a~c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考		
	必修	選択			1年	2年	3年	4年				
学科基礎	食と健康	2		講義	前期	2				×		
	健康管理概論	2		講義	前期		2			×		
	基礎統計学	2		講義	前期	2				×		
	統計学演習	1		演習	後期	1				×		
専門科目	社会生活と健康	公衆衛生学 (衛生学を含む)	◆2	講義	前期			2		×		
		社会福祉概論	◆2	講義	前期			2		×		
	栄養・食生活領域	解剖生理学 (解剖学を含む)	2		講義	前期	2				×	
		解剖生理学実験		◆1	実験	後期	1				×	
		生化学	2		講義	前期		2			×	
		生化学実験		◆1	実験	後期		1			×	
		分子栄養学		2	講義	前期				2	×	
		運動生理学 (生理学を含む)		◆2	講義	前期		2			×	
		運動生理学実験		1	実験	後期		1			×	
		バイオメカニクス		2	講義	前期			2		×	
		病態生理学	2		講義	後期		2			×	
		食品と衛生	食品学Ⅰ	2		講義	前期	2				×
	食品学Ⅱ		2		講義	後期	2				×	
食品学実験			◆1	実験	前期		1			×		
食品加工学			2	講義	後期				2	×		
食品加工学実習			1	実習	後期				1	×		
食品機能論			2	講義	後期				2	○		

注：◆印は選択科目であるが、栄養士免許状を取得するためにはすべて履修しなければならない。

[健康栄養学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専	門	科	目	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
					必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
生 活 領 域	食 品 と 衛 生			食品衛生学	2		講義	後期	2				×		
				食品衛生学実験		◆1	実験	前期		1			×		
	栄 養 と 健 康				基礎栄養学Ⅰ	2		講義	前期	2				×	
					基礎栄養学Ⅱ	2		講義	後期	2				×	
					基礎栄養学実験		◆1	実験	後期	1				×	
					応用栄養学	2		講義	前期		2			×	
					応用栄養学実習		◆1	実習	後期		1			×	
					臨床栄養学Ⅰ	2		講義	前期			2		×	
					臨床栄養学Ⅱ		◆2	講義	後期			2		×	
					臨床栄養学実習		◆1	実習	後期			1		×	
					栄 養 の 指 導				栄養指導論Ⅰ		◆2	講義	前期		2
	栄養指導論Ⅱ		◆2	講義					後期		2			×	
	栄養指導論実習Ⅰ		◆1	実習					後期		1			×	
	栄養指導論実習Ⅱ		◆1	実習					前期			1		×	
	公衆栄養学概論	2		講義					後期			2		×	
	公衆栄養学実習		◆1	実習					前期				1	×	
	給 食 の 運 営				調理学	2		講義	前期	2				×	
					基礎調理学実習Ⅰ	1		実習	前期	1				×	
					基礎調理学実習Ⅱ	1		実習	後期	1				×	
					応用調理学実習		1	実習	後期		1			×	
					給食計画・実務論		◆2	講義	前期			2		×	
					給食運営実習		◆1	実習	後期			1		×	
					給食運営校外実習		◆1	実習	通年				1	×	集中
					給食運営演習		◆2	演習	通年				2	×	
					食事計画論	2		講義	前期		2			×	
					食事計画論演習		1	演習	前期		1			×	
	食 文 化 ・ 食 ヒ ジ ネ ス				食文化概論		2	講義	前期			2		×	
					健康食育論		2	講義	後期			2		○	
					食コーディネート論		2	講義	後期			2		×	
					食コーディネート論実習		1	実習	前期				1	×	
					フードマネージメント論		2	講義	後期			2		×	
	健 康 支 援 領 域				運動の障害と予防		2	講義	前期		2			×	
					健康産業施設実習		1	実習	後期			1		×	集中
スポーツ社会学(スポーツ経営管理学を含む)						2	講義	前期			2		○		

註：◆印は選択科目であるが、栄養士免許状を取得するためにはすべて履修しなければならない。

[健康栄養学科]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授 業 科 目		単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年		
健康支援領域	健康スポーツビジネス論		2	講義	前期				2	○	
	障害者福祉論		2	講義	後期				2	×	
健康運動領域	健康づくりの運動A (体づくり運動・体操)	1		実習	前期	1				×	
	健康づくりの運動B (ダンス)		1	実習	後期		1			×	
	健康づくりの運動C (水泳・陸上競技)		1	実習	前期	1				×	
	健康づくりの運動D (器械運動)		1	実習	後期		1			×	
	健康づくりの運動E (武道)		1	実習	後期		1			×	集中
	健康づくりの運動F (球技Ⅰ)		1	実習	後期	1				×	
	健康づくりの運動G (球技Ⅱ)		1	実習	前期			1		×	
	健康づくりの運動H (球技Ⅲ)		1	実習	後期			1		×	
	健康づくりの運動I (野外活動)		1	実習	前期		1			×	集中
	運動栄養学演習		1	演習	前期			1		×	
	健康運動指導演習		1	演習	後期			1		×	
	トレーニング論演習		1	演習	前期			1		×	
	運動プログラム演習		1	演習	前期		1			×	
	体力測定・評価演習		1	演習	後期			1		×	
	教育領域	体育原理		2	講義	前期		2			×
運動学 (運動方法学)			2	講義	後期		2			×	
健康・スポーツ心理学			2	講義	後期		2			×	
救急・応急処置演習			1	演習	後期		1			×	
学校保健概論			2	講義	前期			2		×	
演習	健康栄養学演習	2		演習	通年			2		×	
卒業研究	卒業研究	4		演習	通年				4	×	

注：◆印は選択科目であるが、栄養士免許状を取得するためにはすべて履修しなければならない。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

健康栄養学科 カリキュラムマップ

■ → 必修

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
学科基礎	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野に関わる基礎知識および技術を修得し、健康のスペシャリストの意義を理解することができる。 基礎知識や技術をもとに最新の健康に関わる情報を収集し、統計的手法を用いた情報の分類、解析方法を学ぶことができる。 自分の考えをもとに自己表現するとともに、他人の考えに協調し、相互理解するための能力を演習などのディスカッションを通して修得することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食と健康 基礎統計学 統計学演習 	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理概論 			
		<ul style="list-style-type: none"> 栄養士として必要な公衆衛生や社会福祉に関する基礎的知識および技術を学ぶことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生学（衛生学を含む） 社会福祉概論 	
		<ul style="list-style-type: none"> 栄養士として必要な生理学・生化学の基礎的知識および技術を講義により学ぶことができる。 講義で学んだ生理学・生化学の基礎的知識および技術を実験実習により深く理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理学（解剖学を含む） 解剖生理学実験 	<ul style="list-style-type: none"> 生化学 生化学実験 運動生理学（生理学を含む） 運動生理学実験 病態生理学 	<ul style="list-style-type: none"> バイオメカニクス 	<ul style="list-style-type: none"> 分子栄養学
		<ul style="list-style-type: none"> 栄養士として必要な食品および食品の衛生管理に関する基礎的知識および技術を講義により学ぶことができる。 講義で学んだ食品および食品の衛生管理に関する基礎的知識および技術について実験実習により深く理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品学 I 食品学 II 食品衛生学 	<ul style="list-style-type: none"> 食品学実験 食品衛生学実験 		<ul style="list-style-type: none"> 食品加工学 食品加工学実習 食品機能論
		<ul style="list-style-type: none"> 栄養士として必要な栄養に関する知識および技術について基礎から応用まで講義により学ぶことができる。 講義で修得した知識や技術を実験実習により体系的に理解し、実践力を養うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎栄養学 I 基礎栄養学 II 基礎栄養学実験 	<ul style="list-style-type: none"> 応用栄養学 応用栄養学実習 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床栄養学 I 臨床栄養学 II 臨床栄養学実習 	
		<ul style="list-style-type: none"> 栄養士として栄養指導を行うために必要な基礎的知識を学ぶことができる。 栄養士として栄養指導に必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を実習により修得し、実践力を養うことができる。 個々の事例についての的確な栄養アセスメントができ、適切な指導のできる技能を実習を通して修得することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 栄養指導論 I 栄養指導論 II 栄養指導論実習 I 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養指導論実習 II 公衆栄養学概論 	<ul style="list-style-type: none"> 公衆栄養学実習
		<ul style="list-style-type: none"> 栄養士として給食運営に必要な基礎的知識および技術を修得することができる。 栄養士として必要な給食運営を実習により体験し、基礎的知識および技術を実験実習により理解し、実践力を養うことができる。 学外での実習を体験することにより、栄養士としての使命感を持ち、自ら考え行動できる能力を養うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理学 基礎調理学実習 I 基礎調理学実習 II 	<ul style="list-style-type: none"> 応用調理学実習 食事計画論 食事計画論演習 	<ul style="list-style-type: none"> 給食計画・実務論 給食運営実習 	<ul style="list-style-type: none"> 給食運営校外実習 給食運営演習
		<ul style="list-style-type: none"> 健康のスペシャリストとして食を多角的にとらえるための知識や方法論について学ぶことができる。 食に関する社会の問題点やニーズを的確に把握するための技法について学ぶことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 食文化概論 健康食育論 食コーディネート論 フードマネージメント論 	<ul style="list-style-type: none"> 食コーディネート論実習

栄養・食生活領域

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
健康支援領域	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する問題に対して論理的に思考するための知識と技術を修得することができる。 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を学外施設実習により修得し、実践力を養うことができる。 		運動の障害と予防	健康産業施設実習 スポーツ社会学 (スポーツ経営管理学を含む)	健康スポーツビジネス論 障害者福祉論
健康運動領域	<ul style="list-style-type: none"> 健康のスペシャリストとして必要な運動技能を実技により修得することができる。 健康と運動との関連性についての情報を収集し、科学的な根拠をもとに的確に判断、評価できる能力を演習により修得することができる。 	健康づくりの運動A (体づくり運動・体操) 健康づくりの運動C (水泳・陸上競技) 健康づくりの運動F (球技Ⅰ)	健康づくりの運動B (ダンス) 健康づくりの運動D (器械運動) 健康づくりの運動E (武道) 健康づくりの運動Ⅰ (野外活動) 運動プログラム演習	健康づくりの運動G (球技Ⅱ) 健康づくりの運動H (球技Ⅲ) 運動栄養学演習 健康運動指導演習 トレーニング論演習 体力測定・評価演習	
教育領域	<ul style="list-style-type: none"> 栄養学を基礎として食・運動の教育、指導に関する基礎的知識および技術を学ぶことができる。 教育、指導に関する基礎的知識および技術を生かし、健康面での適切な指導ができる能力を演習でディスカッションを行うことで高めることができる。 		体育原理 運動学（運動方法学） 健康・スポーツ心理学 救急・応急処置演習	学校保健概論	
演習	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索の方法を修得することができる。 科学論文の読み方を修得することができる。 レポートの作成方法を修得することができる。 			健康栄養学演習	
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 実験計画を立案することができる。 計画にもとづき、実験を実施することができる。 実験結果を取りまとめ、発表することができる。 				卒業研究
DP	健康栄養学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 栄養士として食・運動・教育に対して深い知識を持ち、社会の健康づくりに貢献できる。 2. 健康の維持増進および疾病予防のための運動を指導できる。 3. 協調性を重んじ、自ら問題を掘り起こし解決できる能力を持つ。				
CP	健康栄養学科では、栄養士養成を基盤とし、そのうえで、食、運動、教育の各分野で活躍できる人材育成のためのカリキュラムを編成する。 1. 初年度教育として、健康のスペシャリストとしての動機づけと意識を高めるための学科基礎科目を配置する。 2. 栄養士養成については、栄養士に必要な基礎的知識と技術の習得を重視し、実験・実習科目、学外実習を充実させることで実践力を高める。 3. 食・運動・教育の領域において多様な科目を展開し、社会の健康づくりに貢献できる知識と技能を養う。 4. キャリア実現に向け、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を習得のための教育・指導を展開する。				

食物栄養学科 (KF)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科専門科目	必修	34単位	90単位
	選択	56単位	
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、必修科目34単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目56単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目60単位取得した場合は、4単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓
a~c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考
	必修	選択			1年	2年	3年	4年		
社会・環境と健康		※2	講義	前期		2			×	
		2	講義	前期	2				×	
		※1	実験	後期	1				×	
		1	実習	前期		1			×	
		※※2	講義	後期	2				×	
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち		2	講義	後期	2				×	
		※※1	実験	前期		1			×	
		2	講義	前期			2		×	
		2	講義	後期	2				×	
		※※1	実験	後期		1			×	
		※※2	講義	後期			2		×	
		2	講義	前期		2			×	
		※※2	講義	後期		2			×	
		※2	講義	前期			2		×	
		※2	講義	前期			2		×	
		※1	実験	後期			1		×	
	食べ物と健康		※2	講義	後期	2				×
		2	講義	前期	2				×	
		2	講義	後期	2				×	
		2	講義	前期			2		×	
		※※1	実験	後期	1				×	
		※※1	講義	前期		1			×	

注：栄養士資格を取得するためには、※※印の選択科目をすべて履修しなければならない。

注：管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、※※印の選択科目及び※印の選択科目をすべて履修しなければならない。

[食物栄養学科]

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 科 目	食 べ 物 と 健 康	食品加工学実習		※1	実習	前期		1			×	
		栄養化学		2	講義	前期			2		×	
		調理学	2		講義	前期	2				×	
		調理学実習Ⅰ	1		実習	前期	1				×	
		調理学実習Ⅱ	1		実習	後期	1				×	
		調理学実習Ⅲ (実験を含む)		※1	実習	後期		1			×	
		調理学実習Ⅳ		1	実習	後期			1		×	
		食品衛生学		※※2	講義	後期	2				×	
		食品衛生学実験		※※1	実験	前期		1			×	
	基礎栄養学	基礎栄養学	2		講義	前期	2				×	
		基礎栄養学実験		※※1	実験	前期	1				×	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2		講義	前期		2			×	
		応用栄養学Ⅱ		※2	講義	後期		2			×	
		応用栄養学Ⅲ		※2	講義	前期				2	×	
		応用栄養学実習		※※1	実習	後期		1			×	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2		講義	前期		2			×	
		栄養教育論Ⅱ		※※2	講義	後期		2			×	
		栄養教育論実習Ⅰ		※※1	実習	後期		1			×	
		栄養教育論実習Ⅱ		※※1	実習	前期			1		×	
		カウンセリング論 (演習を含む)		※2	講義・演習	後期			2		×	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2		講義	後期		2			×	
		臨床栄養学Ⅱ		※※2	講義	前期			2		×	
		臨床栄養学Ⅲ		※2	講義	後期			2		×	
		臨床栄養学Ⅳ		※2	講義	前期				2	×	
		臨床栄養学実習Ⅰ		※※1	実習	前期			1		×	
		臨床栄養学実習Ⅱ		※1	実習	後期			1		×	
		公衆栄養学Ⅰ	2		講義	前期			2		×	
公衆栄養学Ⅱ		※2	講義	後期			2		×			
公衆栄養学実習		※※1	実習	後期			1		×			
給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2		講義	前期		2			×		
	給食経営管理論Ⅱ		※※2	講義	後期		2			×		
	給食経営管理論実習		※※1	実習	前期			1		×		
総合演習	総合演習Ⅰ	1		演習	通年			1	1	×	3年・4年連続履修	
	総合演習Ⅱ		※2	演習	通年				2	×		

注：栄養士資格を取得するためには、※※印の選択科目をすべて履修しなければならない。

注：管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、※※印の選択科目及び※印の選択科目をすべて履修しなければならない。

[食物栄養学科]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授 業 科 目		単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 科 目	臨地実習		※1	実習	通年				1	×	管理栄養士の受験資格を取得するためには、3科目3単位以上を履修すること	
			※1	実習	通年				1	×		
			※1	実習	通年				1	×		
			※1	実習	通年				1	×		
			※※1	実習	通年			1		×		
	食 物 栄 養 関 連 科 目			2	講義	後期	2				×	
				2	講義	前期		2			×	
				2	講義	前期				2	○	
				2	講義	後期			2		○	
				2	講義	前期	2				×	
				2	講義	前期	2				×	
				2	講義	前期				2	○	
				2	講義	前期				2	○	
				2	講義	後期			2		×	
			2	講義	後期		2			○		
卒 業 研 究		4		演習	通年				4	×		

注：栄養士資格を取得するためには、※※印の選択科目をすべて履修しなければならない。

注：管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、※※印の選択科目及び※印の選択科目をすべて履修しなければならない。

そのうち、「臨床栄養臨地実習Ⅰ」「臨床栄養臨地実習Ⅱ」「公衆栄養臨地実習」「給食経営管理臨地実習」より、3科目3単位以上を履修すること。

注：資格科目は卒業単位に含まれない。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

食物栄養学科 カリキュラムマップ

□ → 必修

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
境 社 と 会 健 康 環 境	公衆衛生学、健康管理概論、健康情報処理実習、社会福祉概論領域における基礎学力を理解することができる。	公衆衛生学 公衆衛生学実験 社会福祉概論	健康管理概論 健康情報処理実習		
及 人 び 体 疾 病 の 構 造 の 成 立 機 能	解剖生理学、運動生理学、人間生物化学、医学概論、病態生理学、系統別疾病学、病原物質、微生物学領域における基礎を理解し、管理栄養士ガイドラインに基づき専門職としての能力を習得する。	解剖生理学 人間生物化学	解剖生理学実験 人間生物化学実験 医学概論 病態生理学	運動生理学 人間生活生理学 系統別疾病学 病原物質・微生物学 微生物学実験	
食 べ 物 と 健 康	食べ物と健康における管理栄養士のガイドラインに基づいた体系的な理解を深める。	食物栄養学概論 食品学 I 食品学 II 食品化学実験 調理学 調理学実習 I 調理学実習 II 食品衛生学	食品加工学 食品加工学実習 調理学実習 III (実習を含む) 食品衛生学実験	食品化学 栄養化学 調理学実習 IV	
基 礎 栄 養 学	基礎栄養学領域における管理栄養士のガイドラインに基づいて専門職としての能力を習得する。	基礎栄養学 基礎栄養学実験			
応 用 栄 養 学	<ul style="list-style-type: none"> 栄養状態や心身機能に応じた栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の基本的な考え方について、講義により理解する。 食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠について、講義や実習を通して習得する。 各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理について、講義や実習を通して習得する。 		応用栄養学 I 応用栄養学 II 応用栄養学実習		応用栄養学 III
栄 養 教 育 論	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教育に必要な基本的な理論やモデル、アセスメントから始まる栄養教育プログラムの計画・実施・評価のプロセスなどについて、講義を通じて理解する。 実習によって個人や集団を対象にプレゼンテーション能力を身につけ、さらに演習によって個人へのカウンセリング能力を高めて、管理栄養士として人に伝える技術を習得する。 		栄養教育論 I 栄養教育論 II 栄養教育論実習 I	栄養教育論実習 II カウンセリング論 (演習を含む)	
臨 床 栄 養 学	<ul style="list-style-type: none"> 傷病者および要介護者に対する、科学的根拠に基づいた栄養管理について、講義により理解する。 傷病者および要介護者の栄養管理に必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力をグループ学習・発表、ロールプレイ等により身に付け、栄養状態を改善するための栄養の指導の能力を講義や実習を通じて習得する。 		臨床栄養学 I	臨床栄養学 II 臨床栄養学 III 臨床栄養学実習 I 臨床栄養学実習 II	臨床栄養学 IV
公 衆 栄 養 学	地域・国・地球レベルでの健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や活動について講義により理解する。			公衆栄養学 I 公衆栄養学 II 公衆栄養学実習	
給 食 経 営 管 理 論	給食の運営および給食経営管理に関わる基礎および専門知識について理解、修得する。		給食経営管理論 I 給食経営管理論 II	給食経営管理論実習	
総 合 演 習	臨地実習に臨むために必要な実践的な事項に関して理解、修得する。			総合演習 I	総合演習 II

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
臨地実習	<ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士資格取得に必須の講義、演習・実験・実習科目ならびに関連科目の演習、実験、実習について、体系的に理解する。 管理栄養士資格取得に必須の演習・実験・実習科目ならびに関連科目の演習、実験、実習について、専門知識と技術を統合できる。 			給食運営臨地実習	臨床栄養臨地実習Ⅰ 臨床栄養臨地実習Ⅱ 公衆栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習
食物栄養関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に関連した講義・演習を通じて、食・栄養・健康の基礎知識を習得する。 各領域に関連した演習を通して、食・栄養・健康に関する、より専門性の高い知識や信憑性の高い情報を収集する能力、問題を論理的に思考し説明する能力を習得する。 	食事計画論Ⅰ 人間栄養学概論 生物有機化学	食事計画論Ⅱ (演習を含む) 食文化論	食品機能論 分子栄養学 食物栄養学演習	食薬理学 食生活論 食育論
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 科学的講義を通じて、研究やプレゼンテーション能力を養う。 自ら設定した課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を養う。 				卒業研究
DP	食物栄養学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 科学的な根拠に基づく食・栄養・健康に対する識見を備えている。 2. 食・栄養・健康の問題に対して、適切に解決に導くことのできる企画力・指導能力・実践力を備えている。				
CP	食物栄養学科では、科学的な根拠に基づく、識見、企画力・指導能力、実践力を備えた感性豊かな食と栄養と健康の専門家になることのできる人材を養成することを教育研究上の目的とする。 そのうえで、人間栄養学を基盤とする食・栄養・健康の専門知識・技能を有し、健康や食生活の問題に取り組み、的確に栄養の指導をできる人材の育成を目指したカリキュラムを実施している。				

文芸文化学科 (KG)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科専門科目	必修	27単位	90単位
	専門基幹	10単位	
	選択	53単位	
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、必修科目27単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門基幹科目10単位および専門選択科目53単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目60単位取得した場合は、7 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓
a~c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専 門 科 目	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 科 目	基 礎 科 目	文芸文化入門	2		講義	前期	2				×	
		文芸文化概論	2		講義	後期	2				×	
		日本文学概論	2		講義	前期		2			×	
		芸術文化概論	2		講義	後期		2			×	学芸員課程選択科目
		文芸文化特講	2		講義	前期			2		×	
	日 本 語 科 目	日本語基礎	2		講義	前期	2				×	
		日本語表現Ⅰ	2		講義	後期	2				×	
		日本語表現Ⅱ	2		講義	後期		2			×	
		日本語表現Ⅲ	2		講義	後期			2		×	
	演 習 科 目	基礎演習	1		演習	後期	1				×	
		文芸文化ゼミⅠ	1		演習	前期		1			×	
		文芸文化ゼミⅡ	1		演習	後期		1			×	
		文芸文化テーマ研究ゼミ	2		演習	通年			2		×	
	専 門 基 幹 科 目	文化を考える		●2	講義	前期	(2)	(2)			×	芸術文化コース必修
日本と異文化			○2	講義	前期	(2)	(2)			×	学芸員課程選択科目	
世界の演劇			○2	講義	前期	(2)	(2)			×		
芸術とことば			○2	講義	後期	(2)	(2)			×		
日本語学入門			■2	講義	前期	(2)	(2)			×	日本語・日本文学コース必修	
言語学入門			□2	講義	後期	(2)	(2)			×		
日本文学史A			□2	講義	後期	(2)	(2)			×		
日本文学史B			□2	講義	前期	(2)	(2)			×		
日本文学史C		□2	講義	後期	(2)	(2)			×			

注：芸術文化コースは●印科目が必修科目。他に○印科目より2科目4単位を履修すること。

注：日本語・日本文学コースは■印科目が必修科目。他に□印科目より2科目4単位を履修すること。

[文芸文化学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専 門 科 目	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 科 目	専 門 を 学 ぶ た め の 基 礎 科 目	日本文学の名作		2	講義	前期	(2)	(2)			×	
		海外文学の名作		2	講義	後期	(2)	(2)			×	
		音声表現		2	講義	前・後	(2)	(2)			×	
		考える日本史		2	講義	前期	(2)	(2)			×	
		フィールドスタディ		1	演習	前期	(1)	(1)			×	
		生涯学習概論		2	講義	前期	(2)	(2)			○	司書・学芸員課程必修科目
	芸 術 文 化 領 域	芸術と歴史		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		芸術と生活		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		芸術と人間		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	学芸員課程選択科目
		日本の文化		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	学芸員課程選択科目
		文化と歴史		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		文化と生活		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		生活とデザイン		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	学芸員課程選択科目
		色彩とデザイン		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		舞台芸術A		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		舞台芸術B		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		身体と表現		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		映像文化論		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		芸能の世界		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		日 本 語 ・ 日 本 文 学 領 域	日本文学論A		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○
	日本文学論B			2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
	日本文学論C			2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
	日本文学研究A			2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
	日本文学研究B			2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
	日本文学研究C			2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
	児童文学			2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	×	司書課程必修科目
	物語分析			2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
漢詩・漢文に親しむ			2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○		
日本語学A			2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○		
日本語学B			2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○		
日本語学研究A			2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○		
日本語学研究B			2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○		
日本語音声学		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○			

[文芸文化学科]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授 業 科 目		単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 選 択 科 目	創 作 表 現 領 域	硬筆書道		2	演習	通年		(2)	(2)	(2)	○	
		毛筆書道		2	演習	通年		(2)	(2)	(2)	○	
		創作ワークショップA		2	演習	通年		(2)	(2)	(2)	○	
		創作ワークショップB		2	演習	通年		(2)	(2)	(2)	○	
		創作ワークショップC		2	演習	通年		(2)	(2)	(2)	○	
		創作ワークショップD		2	演習	通年		(2)	(2)	(2)	○	
		創作ワークショップE		2	演習	通年		(2)	(2)	(2)	○	
	総 合 文 化 領 域	図書の文化		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	司書課程選択科目
		くらしと日本語		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		データコレクション入門		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		比較文化論		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		外国文化論A		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		外国文化論B		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		文化財研究		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	学芸員課程選択科目
		日本文化研究		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		比較文化研究		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		テーマで触れる芸術		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		テーマで読む文学		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		神話・伝承学		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		笑いの文化		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
		マンガ・アニメ文化論		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○	
		ディズニー研究		2	講義	後期		(2)	(2)	(2)	○	
	多元文化論		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○		
外国語としての日本語入門		2	講義	前期		(2)	(2)	(2)	○			
卒業研究	卒業研究	4		演習	通年				4	×		

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

文芸文化学科 カリキュラムマップ

☐ → 必修

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
基礎科目	文学・芸術・文化に関する基礎知識を身につけ、自らの興味・関心のあり所を見出して、主体的に考察する力を身につける。	文芸文化入門 文芸文化概論	日本文学概論 芸術文化概論	文芸文化特講	
日本語科目	・日本語の基礎を学び、日本語について関心を持つ。 ・日本語を正しく用い、目的や場面に合わせた効果的な文書を作成する。 ・高度な日本語運用能力をもって、自らの思いや考えを的確に表現する。	日本語基礎 日本語表現 I	日本語表現 II	日本語表現 III	
演習科目	・人文科学の基本的な研究手法を実践を通して身につける。 ・自ら課題を設定し、研究を深める。	基礎演習	文芸文化ゼミ I 文芸文化ゼミ II	文芸文化テーマ研究ゼミ	
基礎芸術文化	・芸術・文化関連の専門知識を身につける。 ・専門知識を活用し、考察を深める。	文化を考える 日本と異文化 世界の演劇 芸術とことば			
日本語・日本文学基礎科目	・日本語・日本文学関連の専門知識を身につける。 ・専門知識を活用し、考察を深める。	日本語学入門 言語学入門 日本文学史 A 日本文学史 B 日本文学史 C			
専門を学ぶための基礎科目	・多様な文化に関する専門知識を身につける。 ・専門知識を活用し、考察を深める。	日本文学の名作 海外文学の名作 音楽表現 考える日本史 フィールドスタディ 生涯学習概論			
芸術文化領域	・芸術・文化関連の基礎知識を身につける。 ・基礎知識に加え専門知識を主体的に身につける。 ・専門知識を活用し、多様な知識を関連づけて理解する。		芸術と歴史 芸術と生活 芸術と人間 日本の文化 文化と歴史 文化と生活 生活とデザイン 色彩とデザイン 舞台芸術 A 舞台芸術 B 身体と表現 映像文化論 芸能の世界		
日本語・日本文学領域	・日本語・日本文学関連の基礎知識を身につける。 ・基礎知識に加え専門知識を主体的に身につける。 ・専門知識を活用し、多様な知識を関連づけて理解する。		日本文学論 A 日本文学論 B 日本文学論 C 日本文学研究 A 日本文学研究 B 日本文学研究 C 児童文学 物語分析 漢詩・漢文に親しむ 日本語学 A 日本語学 B 日本語学研究 A 日本語学研究 B 日本語音声学		

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
創作表現領域	<ul style="list-style-type: none"> 実践を通して創作技術を修得する。 関連分野の作品を鑑賞し考察する。 自ら課題を設定し創作する。 		硬筆書道 毛筆書道 創作ワークショップA 創作ワークショップB 創作ワークショップC 創作ワークショップD 創作ワークショップE		
総合文化領域	<ul style="list-style-type: none"> 学際的な基礎知識を主体的に身につける。 専門知識を主体的に身につける。 多様な文化を総合的に捉える。 		図書の文化 くらしと日本語 データコレクション入門 比較文化論 外国文化論A 外国文化論B 文化財研究 日本文化研究 比較文化研究 テーマで触れる芸術 テーマで読む文学 神話・伝承学 笑いの文化 マンガ・アニメ文化論 ディズニー研究 多元文化論 外国語としての日本語入門		
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 資料を収集し、自らの研究課題を設定する。 設定したテーマに沿って、調査を重ね研究を進める。 自らの研究を客観的かつ論理的に表現することができる。 				卒業研究
DP	文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. ことばを中核とした多様な芸術・文化への深い理解と洞察力をもっている。 2. 身近な芸術・文化の営みを体験しながら学び、さらに調べて考察し、確かな言葉で表現できる。 3. 幅広い知識とその知見を生かし、さまざまな分野に貢献できる。				
CP	文芸文化学科では、ことばを有する人間によって生み出された文化・芸術に向き合い、人間とことばへの理解を深めると共に、多彩な表現活動の意味を認識し、芸術・文化の創造的な動きや豊かな広がり、およびその価値を感得するカリキュラムを設定している。 1年次は、専門必修科目である「基礎科目」「日本語科目」「演習科目」の各領域のうちの日本語、文化・文芸に関する基礎的な学習を中心に、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を身につける。 2年次は、思考力、分析力、語学力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うPBL型「文芸・文化ゼミ」を中心に、1年次で習得した知識・技能を発展、拡充する。 また、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで興味・関心のあり方を見定め、「専門基幹科目」の履修により3年次のコース選択に備える。 3年次は、芸術文化コース、日本語・日本文化コースのいずれかを選択し、少人数制のゼミにより専門分野への考究を深め、4年次は、学びの集大成として卒業研究に取り組む。				

生活情報学科 (KH)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科 専門科目	ビジネス コース	学科必修	24単位
		学科選択	28単位
		コース必修	6単位
		コース選択	32単位
	情報 コース	学科必修	24単位
		学科選択	34単位
		コース必修	8単位
		コース選択	24単位
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、学科必修科目24単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's “自由選択科目” !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の学科とコースの選択科目それぞれの卒業に必要な単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) ビジネスコースの場合、自学科の学科選択30単位取得するとともに、コース選択36単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a~c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考	
	必修	選択			1年	2年	3年	4年			
専 門 科 目 学 科 共 通 専 門 科 目 ビ ジ ネ ス コ ー ス 専 門 科 目	必 修	会計学入門	2	講義	前期	2				○	
		生活と産業	2	講義	後期	2				○	
		文書作成入門	2	演習	後期	2				×	
		データ処理入門	2	演習	前期		2			×	
		調査と統計	2	演習	前期		2			×	
		ビジネス入門	2	講義	前期		2			×	
		プレゼンテーション技法	2	講義	後期		2			×	
	経 済 ・ 経 営	企業概論	○2	講義	後期	2				○	ビジネスコース必修科目
		ビジネス経済学	2	講義	前期		2			○	
		国際地域学入門	2	講義	前期		2			○	
		企業経営入門	2	講義	前期		2			○	
		グローバルビジネス論	2	講義	前期		2			○	
		起業論	2	講義	前期		2			○	
		経営戦略論	2	講義	前期			2		○	
		現代ビジネス論	2	講義	後期		2			○	
		ファッションビジネス論	2	講義	後期		2			×	
		ビジネスと法律	2	講義	前期			2		○	
		国際ビジネスコミュニケーション	2	講義	前期			2		○	
ファイナンス入門	2	講義	前期			2		○			
企業倫理	2	講義	前期			2		○			
インターネットビジネス	2	講義	後期		2			○			

注：○印はビジネスコース必修科目。◇印は、情報コース必修科目。

注：P.110・111の※1 資格支援科目は、各コースに関係なく学科専門科目 (学科選択科目) の単位に含まれる。

[生活情報学科]

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専	門	科	目	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考									
					必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年											
専	門	科	目	生 活	生活と情報		2	講義	後期	2				○									
					生活と民法		2	講義	後期	2				○									
					年金と保険		2	講義	後期	2				○									
					消費生活と法律		2	講義	前期		2			○									
					生活経済		2	講義	前期		2			○									
					金融資産運用と税制		2	講義	前期		2			○									
					暮らしの税金		2	講義	前期		2			○									
					不動産と相続		2	講義	後期		2			○									
					ライフスタイル論		2	講義	前期			2		○									
					ライフコースと生活設計		2	講義	後期			2		○									
				マ	ケ	テ	ィ	ン	マーケティング論		○2	講義	前期	2			×	ビジネスコース必修科目					
									メディアデザイン		2	講義	後期		2			×					
									広告論		2	講義	後期	2				×					
									広報論		2	講義	後期		2			×					
									問題解決手法		2	講義	前期		2			○					
									ブランド論		2	講義	後期		2			×					
									リテールマーケティング		2	講義	前期		2			○					
									マーケティングリサーチ		2	講義	後期			2		○					
									ビジネスマーケティング		2	講義	後期		2			○					
									ビジネス統計学		2	講義	後期			2		○					
				会	計	簿記入門		○2	講義	後期	2				○	ビジネスコース必修科目							
						簿記基礎		2	講義	前期		2			○								
						簿記基礎演習		2	演習	1後・2前	(2)	(2)			○	繰り返し受講可							
						簿記応用		2	講義	後期		2			○								
						財務会計論		2	講義	後期		2			○								
						BATIC		2	講義	後期	2				○								
				情	報	コ	ー	ス	専	門	科	目	ソフトウェア概論		◇2	講義	前期	2			○	情報コース必修科目	
													パソコン活用		2	演習	前期	2				×	
													医療事務コンピューティング基礎		2	講義	前期	2				×	
													医療事務コンピューティング応用		2	演習	後期	2				×	
													情報基礎		2	講義	後期	2				×	
													データベース基礎		2	講義	前期		2			○	
													マクロ言語		2	演習	後期		2			×	
アルゴリズムとデータ構造		2	講義										後期		2			×					
データベース応用		2	講義										後期		2			×					
データベースプログラミング		2	演習										前期			2		×					
IT活用		2	講義										前期			2		×					

註：○印は、ビジネスコース必修科目。◇印は、情報コース必修科目。

註：P.110・111の※1資格支援科目は、各コースに関係なく学科専門科目（学科選択科目）の単位に含まれる。

[生活情報学科]

▶学年別配当欄の（ ）はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専	門	科	目	授業科目	単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考
					必修	選択			1年	2年	3年	4年		
専	門	情報コース専門科目	ネットワーク	インターネット		◇2	講義	後期	2				○	情報コース必修科目
				ネットワーク基礎		2	講義	前期		2			×	
				ネットワーク設定		2	演習	前期		2			×	
				インターネットとセキュリティ		2	講義	後期		2			×	
				サーバ設定		2	演習	後期			2		×	
			インターネットフェース	ハードウェア概論		◇2	講義	前期	2				○	情報コース必修科目
				CG演習		2	演習	後期	2				×	
				Webページ作成		◇2	演習	前期		2			×	情報コース必修科目
				Webページとスクリプト		2	演習	後期		2			×	
				3D CG		2	演習	前期			2		×	
		システム開発	プログラミング基礎		2	演習	後期	2				×		
			プログラミング応用		2	演習	前期		2			×		
			オブジェクト指向プログラミング		2	演習	後期		2			×		
			サーバサイドプログラミング		2	演習	前期			2		×		
			システムプログラミング基礎		2	演習	前期			2		×		
			システムプログラミング応用		2	演習	後期			2		×		
			システム開発技法		2	講義	後期				2		×	
		資格支援科目※1	ビジネス系	簿記入門スキル		1	演習	前・後 前	(1)	(1)	(1)		○	日商簿記検定初級
				簿記基礎スキル		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	日商簿記検定3級
				簿記応用スキル		4	演習	前・後 前	(4)	(4)	(4)		○	日商簿記検定2級
			ビジネス系	国際会計基礎スキル		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		×	BATIC (国際会計検定)
ファイナンシャル・プランニング技能				1	演習	前・後 前	(1)	(1)	(1)		×	FP3級技能士検定		
ファイナンシャル・プランニング技能応用				2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		×	FP2級技能士検定		
繊維製品品質管理				2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		×	繊維製品品質管理士		
販売・経営管理基礎				1	演習	前・後 前	(1)	(1)	(1)		×	リテール・マーケティング検定3級(日商販売士)		
販売・経営管理応用				2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		×	リテール・マーケティング検定2級(日商販売士)		

注：○印は、ビジネスコース必修科目。◇印は、情報コース必修科目。

注：P.110・111の※1資格支援科目は、各コースに関係なく学科専門科目(学科選択科目)の単位に含まれる。

[生活情報学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目		単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考	
		必修	選択			1年	2年	3年	4年			
資格支援科目※1	情報系	医療事務コンピューティング		1	演習	前・後	(1)	(1)	(1)		×	医事コンピュータ3級
						前				(1)		
		文書作成基礎		1	演習	前・後	(1)	(1)	(1)		×	MOS Word Specialist または日商PC検定 文書作成3級
						前				(1)		
		文書作成応用		2	演習	前・後	(2)	(2)	(2)		×	MOS Word Expert または日商PC検定 文書作成2級
						前				(2)		
		データ処理基礎		1	演習	前・後	(1)	(1)	(1)		×	MOS Excel Specialist または日商PC検定 データ活用3級
						前				(1)		
		データ処理応用		2	演習	前・後	(2)	(2)	(2)		×	MOS Excel Expert または日商PC検定 データ活用2級
						前				(2)		
		プレゼンテーション基礎		1	演習	前・後	(1)	(1)	(1)		×	MOS Powerpoint Specialist
						前				(1)		
データベース処理基礎		1	演習	前・後	(1)	(1)	(1)		×	MOS Access Specialist		
				前				(1)				
インターネット基礎		1	演習	前・後	(1)	(1)	(1)		×	インターネット検定 ドットコムマスター ベーシック		
				前				(1)				
インターネット応用		2	演習	前・後	(2)	(2)	(2)		×	インターネット検定 ドットコムマスター アドバンスシングルスター		
				前				(2)				
IT活用スキル		2	演習	前・後	(2)	(2)	(2)		×	ITパスポート		
				前				(2)				
システムエンジニアリング		4	演習	前・後	(4)	(4)	(4)		×	基本情報技術者または インターネット検定 ドットコムマスター アドバンスダブルスター		
				前				(4)				
ゼミ卒研	ゼミ	生活情報ゼミ	2	演習	後期		2			×		
		演習Ⅰ	2	演習	前期			2		×		
		演習Ⅱ	2	演習	後期			2		×		
	卒業研究	4	演習	通年				4	×			

註：○印は、ビジネスコース必修科目。◇印は、情報コース必修科目。

註：P.110・111の※1資格支援科目は、各コースに関係なく学科専門科目（学科選択科目）の単位に含まれる。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

生活情報学科 カリキュラムマップ

□ → 必修

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
必修	ビジネス系科目において、ビジネスに関する基礎的な知識を習得することができる。 情報系科目において、基礎的な処理能力を習得することができる。 コミュニケーション能力育成科目において、他者とのコミュニケーション能力を向上させることができる。	会計学入門 生活と産業 文書作成入門	データ処理入門 調査と統計 ビジネス入門 プレゼンテーション技法		
経済・経営	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの基礎を知ることができる。 ・ビジネスの動向を知ることができる。 	企業概論	ビジネス経済学 国際地域学入門 企業経営入門 グローバルビジネス論 起業論 現代ビジネス論 ファッションビジネス論 インターネットビジネス	経営戦略論 ビジネスと法律 国際ビジネスコミュニケーション ファイナンス入門 企業倫理	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの基礎を知ることができる。 ・ビジネスの動向を知ることができる。 ・世の中の新しい動向を知ることができる。 	生活と情報 生活と民法 年金と保険	消費生活と法律 生活経済 金融資産運用と税制 暮らしの税金 不動産と相続	ライフスタイル論 ライフコースと生活設計	
マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの動向を知ることができる。 ・ビジネスに関するITの手法を身に付けることができる。 	マーケティング論 広告論	メディアデザイン 広報論 問題解決手法 ブランド論 リテールマーケティング ビジネスマーケティング	マーケティングリサーチ ビジネス統計学	
会計	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに関する基礎的な知識を習得することができる。 ・ビジネスに関する基礎的な技術を習得することができる。 	簿記入門 簿記基礎演習	簿記基礎 簿記応用 財務会計論		
IT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに関する基礎的な知識を習得することができる。 ・ITに関する基礎的な技術を習得することができる。 ・情報処理の基礎知識を身に付けることができる。 	ソフトウェア概論 パソコン活用 医療事務コンピューティング基礎 医療事務コンピューティング応用 情報基礎	データベース基礎 マクロ言語 アルゴリズムとデータ構造 データベース応用	データベースプログラミング IT活用	
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ITに関する基礎的な知識を習得することができる。 ・ITに関する技術を習得することができる。 ・ITに関する新しい動向と技術を習得することができる。 	インターネット	ネットワーク基礎 ネットワーク設定 インターネットとセキュリティ	サーバ設定	
インターフェース	<ul style="list-style-type: none"> ・ITに関する基礎的な知識を習得することができる。 ・ITに関する基礎的な技術を習得することができる。 ・新しい動向と技術を習得することができる。 	ハードウェア概論 CG演習	Webページ作成 Webページとスクリプト	3D CG	
システム開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ITに関する基礎的な技術を習得することができる。 ・応用技術を習得することができる。 ・ITに関する技術を習得することができる。 	プログラミング基礎	プログラミング応用 オブジェクト指向プログラミング	サーバサイドプログラミング システムプログラミング基礎 システムプログラミング応用 システム開発技法	

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ビジネス系	<ul style="list-style-type: none"> 簿記入門スキルを習得することができる。 簿記基礎スキル、ファイナンシャルプランニング技能、販売・経営管理基礎を習得することができる。 簿記応用スキル、繊維製品品質管理、販売・経営管理応用を習得することができる。 	簿記入門スキル 簿記基礎スキル 簿記応用スキル 国際会計基礎スキル ファイナンシャル・プランニング技能 ファイナンシャル・プランニング技能応用 繊維製品品質管理 販売・経営管理基礎 販売・経営管理応用			
情報系	<ul style="list-style-type: none"> 医療事務コンピューティング基礎、文書作成基礎、データ処理基礎、インターネット基礎、プレゼンテーション基礎を習得することができる。 文書作成応用、データ処理基礎応用、データ処理基礎、インターネット応用を習得することができる。 IT活用スキル、システムエンジニアリングを習得することができる。 	医療事務コンピューティング 文書作成基礎 文書作成応用 データ処理基礎 データ処理応用 プレゼンテーション基礎 データベース処理基礎 インターネット基礎 インターネット応用 IT活用スキル システムエンジニアリング			
ゼミ	学生が専攻する分野の知識を習得することができる。 卒業研究を行うための基礎知識・技術を習得することができる。 卒業研究を行うための応用知識・技術を習得することができる。	生活情報ゼミ	演習Ⅰ	演習Ⅱ	
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 生活情報の分野において、自らテーマを設定し、研究計画を立てることができる。 設定したテーマに対する、目標設定、課題抽出を行うことができる。 研究遂行上必要な新たな知識の獲得、課題の解決、結論の導出、議論、発表を行うことができる。 				卒業研究
DP	生活情報学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 実社会において自ら考え、状況に応じて対応することができる知識・能力を獲得する。 2. ビジネス（経済・経営、産業や企業、労働、生活に関わる法や制度など）または情報（IT、ネットワーク、インターフェース、システム）についての専門知識と、それらを組み合わせた幅広い応用力・思考力を持つ。 3. 社会の変化や技術の進歩にあわせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける。				
CP	生活情報学科では、「ビジネスコース」と「情報コース」の2コースを設ける。 両コースの基礎となる「文章表現」「プレゼンテーション」「パソコン活用」等を共通領域とし、これらを基礎として各コースの専門科目を設定する。 「ビジネスコース」では「経済・経営」「生活」「マーケティング」「会計」の4分野の科目を体系的に学び、専門知識を身につけながら、ビジネス関連資格の獲得を目指す。 「情報コース」では「システム開発」「ネットワーク」「インターフェース」「IT活用」の4分野を設け、基礎的な科目から実用的な科目への積み上げにより、無理なく専門知識・技術を身につける。また「ITバースポート」や「基本情報技術者」などの資格取得を目指す。				

メディアコミュニケーション学科 (KJ)

〈専門科目教育課程〉[2019年度生]

科目群		卒業に必要な単位数	
共通科目		18単位	
学科専門科目	必修	30単位	90単位
	選択	60単位	
自由選択科目		16単位	
計		124単位	

- 共通科目から、必修科目 3 単位を含めた18単位以上を履修 (P.63参照)
- 専門科目から、必修科目30単位 (卒業研究を含む) を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、16単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

- 共通科目18単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目24単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目60単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目64単位取得した場合は、4 単位分が自由選択科目の単位となる。
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓
a ~ c を組み合わせて (又は単独で) 16単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の () はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専 門 科 目	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考	
		必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 科 目	メ デ ィ ア 基 礎	メディアコミュニケーション論	2		講義	前期	2				×	
		生活とメディア	2		講義	後期	2				×	
		情報倫理と法	2		講義	前期		2			×	
		社会とニュース	2		講義	前期		2			×	
		メディア産業論	2		講義	後期		2			×	
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 基 礎	プレゼンテーション技法	2		講義	前期	2				×	
		クリエイティブライティングⅠ	2		講義	後期	2				×	
		クリエイティブライティングⅡ	2		講義	前期		2			×	
		メディア分析Ⅰ	2		講義	前期		2			×	
		ディベート	2		講義	後期		2			×	
	メ デ ィ ア 社 会	放送メディア論		2	講義	後期	2				○	
		広告論		2	講義	前期	2				○	
		異文化コミュニケーション		2	講義	前期	2				○	
		新聞ジャーナリズム論		2	講義	後期	2				○	
広報論			2	講義	後期	2				○		
インターネット社会論			2	講義	後期	2				○		
国際マスコミュニケーション論			2	講義	後期	2				○		
市民メディア論			2	講義	後期		2			○		
グローバルジャーナリズム			2	講義	前期		2			○		
ネットと世論			2	講義	前期		2			○		
メディア分析Ⅱ		2	講義	後期		2			○			
政治とメディア		2	講義	後期		2			○			

[メディアコミュニケーション学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

専	門	科	目	授 業 科 目	単 位 数		授 業 形 態	履 修 期	学 年 別 配 当				他 学 科 開 放	備 考								
					必 修	選 択			1 年	2 年	3 年	4 年										
専	門	メ	デ	メディア社会	情報デザイン論		2	講義	後期		2			○								
				地域メディア論		2	講義	後期	2				○									
				教育メディア論		2	講義	後期		2			○									
	メ	デ	ィ	ア	文	文化	マンガ・アニメ文化論		2	講義	前期	2				○						
						メディア文化論		2	講義	後期	2				○							
						音楽表現論		2	講義	前期	2				○							
						エンターテインメントメディア論		2	講義	後期	2				○							
						サブカルチャー論		2	講義	前期	2				○							
						映像表現論		2	講義	後期	2				○							
						ナレーション・朗読		2	講義	後期		2			○							
						映像文化論		2	講義	後期		2			○							
						ファッションメディア論		2	講義	前期		2			○							
						スポーツメディア論		2	講義	後期		2			○							
						メディアアート論		2	講義	前期		2			○							
	メ	デ	ィ	ア	デ	ザ	翻訳文化論		2	講義	後期		2			○						
						デザイン I		2	講義	前期	2				○							
						Webデザイン論		2	講義	前期	2				○							
						サウンドデザイン基礎		2	講義	前期	2				○							
						写真技術		2	講義	前期	2				○							
						雑誌・書籍論		2	講義	後期	2				○							
						Webデザイン基礎		2	講義	後期	2				○							
						サウンドデザイン応用		2	講義	後期	2				○							
						メディアデザイン II		2	講義	後期	2				○							
						企画・インタビュー手法		2	講義	前期		2			○							
						メディアデザイン論		2	講義	前期		2			○							
						コンピュータグラフィックス論		2	講義	前期	2				○							
						Webデザイン応用		2	講義	前期		2			○							
						色彩論		2	講義	後期		2			○							
						メ	デ	ィ	ア	プ	ロ	メディアプロデュース論		2	講義	前期	2				○	
											デュース	映像制作基礎		2	講義	前期	2				○	
ース	コンテンツマーケティング論		2	講義	後期						2				○							
制作	広告制作		2	講義	後期						2				○							
作	広報制作		2	講義	後期							2			○							
ス	新聞・雑誌制作基礎		2	講義	前期							2			○							

[メディアコミュニケーション学科]

▶学年別配当欄の()はそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目		単位数		授業形態	履修期	学年別配当				他学科開放	備考		
		必修	選択			1年	2年	3年	4年				
専 門 選 択 資 格 支 援 ゼ ミ ニ 卒 業 研 究	メディア プロ デュ ース	アニメーション制作基礎		2	講義	前期		2			○		
		グラフィックデザイン		2	講義	前期		2			○		
		放送番組制作(ドキュメンタリー)		2	講義	前期		2			○		
		音声制作(ラジオ)		2	講義	前期		2			○		
		インタラクティブコンテンツ制作		2	講義	後期		2			○		
		映像制作応用		2	講義	後期		2			○		
		新聞・雑誌制作応用		2	講義	後期		2			○		
		アニメーション制作応用		2	講義	後期		2			○		
		電子ブック制作		2	講義	後期		2			○		
		放送番組制作(スタジオ)		2	講義	後期		2			○		
		音声制作(ラジオドラマ)		2	講義	後期		2			○		
		CG クリ エー タ	CGクリエイター初級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	CGクリエイター検定 ベーシック
			CGクリエイター上級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	CGクリエイター検定 エキスパート
			CGエンジニア初級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	CGエンジニア検定 ベーシック
			CGエンジニア上級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	CGエンジニア検定 エキスパート
			Webデザイナー初級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	Webデザイナー検定 ベーシック
			Webデザイナー上級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	Webデザイナー検定 エキスパート
			画像処理エンジニア初級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	画像処理エンジニア 検定ベーシック
			画像処理エンジニア上級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	画像処理エンジニア 検定エキスパート
			マルチメディア初級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	マルチメディア検定 ベーシック
			マルチメディア上級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	マルチメディア検定 エキスパート
		ニュー ス時 事	ニュース時事初級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	ニュース時事能力検 定3級
			ニュース時事上級		2	演習	前・後 前	(2)	(2)	(2)		○	ニュース時事能力検 定準2級
			基礎ゼミナール	2		演習	後期	2				×	
		ゼ ミ ニ 卒 業 研 究	ワークショップⅠ		2	演習	前期		2			×	繰り返し受講可
			ワークショップⅡ		2	演習	後期		2			×	繰り返し受講可
			演習Ⅰ	2		演習	前期			2		×	
	演習Ⅱ		2		演習	後期			2		×		
	卒業研究		4		演習	通年				4	×		

原則として「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は以下の条件をすべて満たす場合に限り履修可能である。

- ①2年次終了時に、修得単位数が卒業要件科目のうち55単位以上であること。
- ②「入門ゼミナール」、「情報処理演習Ⅰ」、「基礎ゼミナール」の単位を修得していること。
- ③専門必修科目(メディアコミュニケーション論、生活とメディア、情報倫理と法、社会とニュース、メディア産業論、プレゼンテーション技法、クリエイティブライティングⅠ、クリエイティブライティングⅡ、メディア分析Ⅰ、ディベート)のうち6科目の単位を修得していること。

また、特別に認めない限り、「卒業研究」と「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」の同年次の履修は認めない。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

メディアコミュニケーション学科 カリキュラムマップ

□ → 必修

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
メディア基礎	<ul style="list-style-type: none"> メディアの特性を理解し、社会での実践力の基礎を身につけることができる。 メディアを活用した自己表現力の基礎を身につけることができる。 	メディアコミュニケーション論 生活とメディア	情報倫理と法 社会とニュース メディア産業論		
コミュニケーション基礎	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの基礎となる言語、音声、テキストを活用する力を育成することができる。 文化の理解及び情報収集能力・分析力を育成することができる。 	【メディア】プレゼンテーション技法 クリエイティブライティングⅠ	クリエイティブライティングⅡ メディア分析Ⅰ ディベート		
メディア社会	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の仕組みと特性を理解し、主体的に関わる態度を育成することができる。 マスメディアと現代社会との関わりや影響について理解することができる。 インターネットの特性を理解し、社会との関係を理解することができる。 	放送メディア論 【メディア】広告論 【メディア】異文化コミュニケーション 新聞ジャーナリズム論 【メディア】広報論 インターネット社会論 国際マスメディア論 地域メディア論	市民メディア論 グローバルジャーナリズム ネットと世論 メディア分析Ⅱ 政治とメディア 情報デザイン論 教育メディア論		
メディア文化	<ul style="list-style-type: none"> メディアが生み出す様々な現代文化と日常生活との関わりについて学び、考える力を育成することができる。 メディア文化の成り立ちや表現方法を理解し、評価、判断する感性を育成することができる。 	【メディア】マンガ・アニメ文化論 メディア文化論 音楽表現論 エンターテインメントメディア論 サブカルチャー論 映像表現論	ナレーション・朗読 【メディア】映像文化論 ファッションメディア論 スポーツメディア論 メディアアート論 翻訳文化論		
メディアデザイン	<ul style="list-style-type: none"> メディアの特性を活かす表現能力の基礎を学修することができる。 多様なメディアコンテンツ全般に関する知識を身につけることができる。 各メディアの表現方法の特徴を理解することができる。 	メディアデザインⅠ Webデザイン論 サウンドデザイン基礎 写真技術 雑誌・書籍論 Webデザイン基礎 サウンドデザイン応用 メディアデザインⅡ コンピュータグラフィックス論	企画・インタビュー手法 メディアデザイン論 Webデザイン応用 色彩論		
メディアプロデュース	<ul style="list-style-type: none"> メディアの特性を活かすコンテンツ制作の技術を身につけることができる。 デザイン、編集、校正に関する専門技術を習得することができる。 コンテンツの企画、発信に関する多様な手法を身につけることができる。 	メディアプロデュース論 映像制作基礎 コンテンツマーケティング論 広告制作	広報制作 新聞・雑誌制作基礎 アニメーション制作基礎 グラフィックデザイン 放送番組制作（ドキュメンタリー） 音声制作（ラジオ） インタラクティブコンテンツ制作 映像制作応用 新聞・雑誌制作応用 アニメーション制作応用 電子ブック制作 放送番組制作（スタジオ） 音声制作（ラジオドラマ）		

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
資格支援	資格取得に必要な知識、技術を学修することができる。	CGクリエイター初級 CGクリエイター上級 CGエンジニア初級 CGエンジニア上級 Webデザイナー初級 Webデザイナー上級 画像処理エンジニア初級 画像処理エンジニア上級 マルチメディア初級 マルチメディア上級 ニュース時事初級 ニュース時事上級			
ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働して問題解決ができる能力を育成することができる。 ・調査、分析を行う能力を育成することができる。 ・総合的なメディアリテラシーを育成することができる。 	基礎ゼミナール	ワークショップⅠ ワークショップⅡ	演習Ⅰ 演習Ⅱ	
卒業研究	メディアを使った卒業研究の企画、構成、制作、編集、発表までの一連の作業を行える力を身につけることができる。				卒業研究
DP	メディアコミュニケーション学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 情報の送受信の基本的なルールや技能を身につけている。 2. メディア文化・社会に関わる専門知識に基づいて、その技能を社会でのコミュニケーションに実践的に活用する力を修得する。				
CP	メディアコミュニケーション学科では、メディアコミュニケーションの基礎力となるメディア理解やメディアリテラシー、また職業人としての基礎力を身につけるために、専門必修領域として「メディア基礎」と「コミュニケーション基礎」を設定する。さらに、メディアに対する知識・理解・分析力の醸成、および情報の創造・編集・発信と企画力・実行力を修得するために、専門選択領域として「メディア社会」「メディア文化」「メディアデザイン」「メディアプロデュース」の各領域を設ける。また、基礎ゼミ、演習、卒業研究のゼミを設定することで、個に応じたきめの細かい教育課程を実現する。そのために、講義で学ぶ理論と演習・実習でおこなう実践の、学びの融合をおこない、達成感を感じさせるとともに総合的な理解が可能になるような教育課程の編成とする。				